

第44回

ボイス・オブ・ユース

青少年の主張



横浜市青少年指導員 シンボルマーク

南区青少年指導員協議会

凡 例

- 1 本作文集は、南区青少年指導員協議会主催の「ボイス・オブ・ユース」事業に応募された作文のうち、入選した作文を収録したものです。
- 2 本作文集は、青少年の率直な意見・思いを忠実に反映させることにしました。ご理解とご配慮をお願いいたします。
- 3 一部の作品については、読みやすくするため句読点・段落等をご本人と先生の確認のうえ整理しています。

『第44回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）』 の発刊にあたって

.....

南区青少年指導員協議会 会長 山崎 直宏

ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）は今年、第44回目を迎えました。

これも小・中学校の校長先生を始め、諸先生方の深いご理解とご協力の賜物と、誌面をお借りして感謝し、お礼申し上げます。

また、文集発刊にあたりまして、今年も心強いご支援をいただきました団体、企業の皆さまにも感謝とお礼を申し上げます。

今年は、「大人になった自分への手紙」という新しいテーマを加え、「私の好きな南区」「ルールとマナー」「自由課題」の4つのテーマを設定し、区内の多くの青少年の皆さんから、約1600編という多数の作文応募をいただきました。

170余名の青少年指導員は、青少年の率直な思いに触れ、約2か月にわたり嬉しい悲鳴をあげながら、69編の入選作文を選考させていただきました。厳しい選考を経て入選されました児童・生徒の皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

私たち南区青少年指導員は、日頃から子どもたちと目線を同じくし、区内の各地域の活動の中で、地域と子どもたちのパイプ役として、子どもたちの居場所づくりのために、また地域の人材として子どもたちを育むために努力しております。

春のみなみ桜まつり、夏のふれあいキャンプ、秋のボイス・オブ・ユースと、年間をとおして児童・生徒とのふれあいの場、異年齢交流の機会を提供しながら、南区の子どもたちが、団体行動の中での責任感をはぐくみ、人の痛みを感じることでできる大人に育てて欲しいと願いつつ今後も活動してまいります。

結びに南区長をはじめ、連合町内会・自治会、諸先生、諸団体、各企業の皆さまに改めて感謝とお礼申し上げますとともに、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りたく存じます。

また区内青少年指導員全員の日頃の努力と、ボイス・オブ・ユースをここまで育ててくださった先輩方の歴史の積み重ねに感謝し、発刊にあたっての挨拶とさせていただきます。

『第44回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）』 の発刊に寄せて

横浜市南区長 高澤 和義

「第44回ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）」の開催、誠におめでとうございます。

今年も多くの皆様に御参加いただきました。作文には、家族や友人、自分の住むまちや地域の人々、その地域に根付いた行事のほか、世界各国や地球規模の問題など、様々な視点でいろいろな思いが綴られていました。

テーマ「大人になった自分への手紙」では、夢や未来を語る皆さんの思いに触れ、明るい気持ちになりました。「私の好きな南区」では、家族や地域の方々に感謝の気持ちを素直に伝えたり、地域のおまつりに関心を深め、「地域活動に積極的に参加をしたい」という声を聴くことができ、とても温かい気持ちになりました。他にも、ルールやマナー、日頃から疑問に思っていることが表現されており、皆さんの思いや考えを知ることができ、一緒に考えるよい機会になりました。

SNSなどが普及し、気軽に、短い文章で簡単に会話ができる今、1200文字という文章で自分の思いや考えを作文にして表現する、このような機会は大変貴重な場だと考えています。

同年代の皆さんの朗読を聴き、この作文集に綴られている皆さんの『思い』を共有することで、新たな考え方（価値観）に触れ、より一層視野が広がる機会になることを期待しています。

横浜市では、こどもを社会のまんなかにも据える「こどもまんなか社会」の実現を掲げ、南区においても、子どもの居場所づくりを支援するとともに、地域ぐるみで子ども・青少年の健全育成に取り組んでいます。この「ボイス・オブ・ユース」を通じて、次世代を担う青少年の『思い』に、大人が耳を傾け、お互いを尊重しあい、青少年の成長を地域ぐるみで見守っていきたいと考えています。

結びに、「ボイス・オブ・ユース」の企画・運営に御尽力いただいた南区青少年指導員協議会の皆様をはじめ、御協力、御支援いただいた皆様にあらためて感謝申し上げますとともに、青少年の健全育成への取組がますます発展していくことを願ひまして、発刊に寄せた挨拶とさせていただきます。

第44回

ボイス・オブ・ユース（青少年の主張）実施概要

- 1 事業概要 青少年の思いや考えを文章で表現した作文を通じて、青少年の率直な声に耳を傾け、お互いに思いや考えを理解することで、青少年の健全育成を図ります。
- 2 募集期間 令和6年8月1日～8月27日
- 3 対象 南区内在住・在学の小学校3～6年生、中学生、高校生、一般（20歳まで）
- 4 募集テーマ ①大人になった自分への手紙
②私の好きな南区（人、場所など）
③ルールとマナーについて（スマホ、ゲーム、酒、たばこ、薬物など）
④自由課題
- 5 主催・共催 主催 南区青少年指導員協議会 / 共催 南区役所
- 6 協賛 日本濾水機工業株式会社 横浜南央ロータリークラブ
横浜弘明寺商店街協同組合 横浜南陵ロータリークラブ
株式会社ジェイコム湘南・神奈川横浜テレビ局
横浜南ロータリークラブ 横浜橋通商店街協同組合
横浜市南区薬剤師会 南区連合町内会長連絡協議会
- 7 応募総数 1,552編（うち入選数 69編）
〈内訳〉

テーマ	小学生		中学生・高校生・一般	
	応募数	うち入選数	応募数	うち入選数
大人になった自分への手紙	91	6	209	10
私の好きな南区（人、場所など）	49	4	57	1
ルールとマナーについて	109	2	348	5
自由課題	425	21	264	20
合計	674	33	878	36

（編）

8 選考会

(1) 1次選考会

8月31日に青少年指導員により、1次選考会を実施。

(2) 2次選考会

9月6日～15日で各地区において、2次選考会を実施。

(3) 調整会議

10月3日に69編が入選作品に決定しました。

第44回ボイス・オブ・ユース入選者一覧

小学生の部

テーマ1: 大人になった自分への手紙

6ページ

	氏名	学校名	学年
1	大谷 愛	横浜市立永田台小学校	5年
2	井口 夢	横浜市立南小学校	6年
3	桐原 慧	横浜市立南小学校	6年
4	加藤 柚	横浜市立永田台小学校	6年
5	藤岡 沙	横浜市立永田台小学校	6年
6	久松 小	横浜市立六つ川西小学校	6年

テーマ2: 私の好きな南区

11ページ

(人、場所など)

	氏名	学校名	学年
1	青野 龍	横浜市立南小学校	4年
2	高橋 杏	横浜市立南小学校	5年
3	志井 詩	横浜市立南小学校	5年
4	山田 怜	横浜市立六つ川西小学校	6年

テーマ3: ルールとマナーについて

15ページ

(スマホ、ゲーム、お酒、たばこ、薬物など)

	氏名	学校名	学年
1	和田 茉	横浜市立南小学校	5年
2	丸山 愛	横浜市立藤の木小学校	6年

テーマ4: 自由課題

17ページ

	氏名	学校名	学年
1	宮下 知	横浜市立南吉田小学校	3年
2	永窪 舞	横浜市立永田台小学校	3年
3	栗原 かん	横浜市立永田台小学校	4年
4	山田 幸	横浜市立南吉田小学校	5年
5	渡邊 孝	横浜市立南吉田小学校	5年
6	小泉 拓	横浜市立南小学校	5年
7	平尾 柚	横浜市立南小学校	5年
8	川崎 元	横浜市立六つ川台小学校	5年
9	齋藤 琉	横浜市立六つ川台小学校	5年
10	石川 倫	横浜市立南吉田小学校	6年
11	佐伯 美	横浜市立永田小学校	6年
12	北村 英	横浜市立南小学校	6年
13	村上 上	横浜市立南小学校	6年
14	狩野 晴	横浜市立南小学校	6年
15	奥平 詩	横浜市立六つ川小学校	6年
16	佐藤 帆	横浜市立六つ川小学校	6年
17	佐藤 莉	横浜市立六つ川小学校	6年
18	浦田 栞	横浜市立六つ川小学校	6年
19	菊池 優	横浜市立六つ川小学校	6年
20	周治 愛	横浜市立藤の木小学校	6年
21	遠藤 楓	横浜市立藤の木小学校	6年

第44回ボイス・オブ・ユース入選者一覧

中学生・高校生・一般の部

テーマ1: 大人になった自分への手紙

36 ページ

氏名	学年
1 齊藤 結 咲	1年
2 藤野 明 莉	1年
3 田中 来 実	2年
4 前田 笑 茉	2年
5 赤羽 綾 華	2年
6 藤咲 夏 都	2年
7 酒井 月 志	3年
8 金須 志 織	3年
9 鈴木 木 凜	3年
10 安積 稔 柊	3年

テーマ2: 私の好きな南区 (人、場所など)

44 ページ

氏名	学年
1 勝部 はんな	2年

テーマ3: ルールとマナーについて

45 ページ

(スマホ、ゲーム、お酒、たばこ、薬物など)

氏名	学年
1 鷹尾 和 香	1年
2 津原 康 希	1年
3 野本 エレナ	2年
4 長崎 怜 志	2年
5 村野 新 太	3年

テーマ4: 自由課題

50 ページ

氏名	学年
1 門脇 なつ 希	1年
2 白井 愛 莉	1年
3 坂井 ふの	1年
4 武田 歩 夢	1年
5 南波 みずき	1年
6 照井 希々 華	2年
7 徳山 花 実	2年
8 池内 凛 凜	2年
9 衣川 心 音	2年
10 望月 柚 樹	2年
11 郭 心 怡	2年
12 佐久間 優 成	2年
13 武田 ひな 子	2年
14 吉次 結 咲	2年
15 浅香 美 咲	2年
16 内山 優 希	3年
17 大北 梨 奈	3年
18 平田 絵 梨	3年
19 田中 杏 杏	3年

小学生の部

テーマ1 大人になった自分への手紙

1 10年後の自分へ

横浜市立永田台小学校 5年 大谷 愛

10年後の自分へ。今の私は小学5年生のあなたです。未来の自分に手紙を書きました。

この手紙を書いている日の2日後に、空手の大会があります。7月の初めからキッズクラブのドッジボールの練習をお休みして、毎日練習しています。幼稚園の年中から6年間、大会に向けての練習や昇級審査に向けて頑張ったよね。練習はつらいし、なみだを流すこともあったけど、目標にしている黒帯まであと少し！気を抜かずに頑張るね！まずは今週末の大会頑張ってください！

幼稚園のころからずっと願っていた看護師になる夢は、10年後の今でも思い続けているかな？生まれた時からずっとお世話になっているかかりつけの先生が大好きで、一緒に働きたいと思っていたこと、覚えているかな？5年生の私は、その夢をかなえるために、看護師の仕事を調べたり、お父さんの知り合いの看護師さんに話を聞いたりしています。器具の使い方や器具の名前用語は難しいことばかりだけど、人の命を救いたい、役に立ちたい！その気持ちは忘れずにいようと思っています。10年後の自分は看護学校に通っているのかな。少しでも夢に近づいていたらいいな。

自分から、「空手習いたい」と言って大会にも出場したり、合宿や昇級審査を受けさせてくれたのも、何か気になることがあったり、チャレンジしてみたいことがあった時、お父さんやお母さんはすぐ、「やってみな！」といつも言ってくれたよね。今も変わらないかな？おこる時はめちゃくちゃこわくてきびしいけど、いつも味方でいてくれるし、そばにいてくれるよね。私は、お父さんとお母さんの子どもに生まれてきて「よかった。」と心から思っています。10年後の自分は、お父さんやお母さんに少しずつでいいから恩返ししていてくれたらうれしいです。

最後に、何かに一つ夢中になれることがあるって本当にうれしいよね。10年後の自分がどんな風に成長しているのか、今から楽しみです。家族や友達とのきずなをこの先も大切にしてくださいね。未来の自分も今の私と同じように笑顔いっぱい・幸せいっぱいあふれますように。

2 未来の私へ

横浜市立南小学校 6年 井口 夢彩

今の私は小学6年生です。しょうらいはペットの美容師であるトリマーになる夢を持っています。未来の私とその夢をかなえているのか、とてもわくわくします。

まずは、夢をかなえるためには努力と勉強を重ねることが必要です。トリマーとして成長するためには、まず動物が好きであることややさしさ、根気強さが必要です。そしてトリマーは、せんもんの知識や技術が必要となるため、しっかりと勉強することが大切です。

トリマーは動物たちとふれ合い、動物の健康や美容をサポートする大切な仕事です。トリマーとして働くためには、動物たちに対する愛情と責任感が大切だと思います。いつも動物たちのことを考え、安全で快適なかんきょうでトリミングを行うことが大切です。

トリマーになるためには、かんきょうの変化や急な動きにも対応することが必要です。犬やねこなどの動物たちは、じっとしてられないこともあるため、そのようなじょうきょうにも臨機応変に対応できる力が大切です。

そして、トリマーになるためには、常に新しい技術や流行を取り入れることも大切です。動物たちの飼い主さんからも信頼してもらうためにも、常に向上心を持ち勉強を続けることが必要です。

最後に未来の私へ、夢をかなえるために自分を信じ、周りの人たちの言葉も大切にしつつ、自分の目標と夢を追いかける勇気を持って、時にはこんなやぎせつをする時もあるかもしれませんが、トリマーへの道をつき進んでがんばってください。動物が大好きなのでトリマーの才能があると信じています。きっと未来の私は、すてきなトリマーになっていることでしょう。一步一步がんばっていきましょう。

3 個性よ、光れ、そしてかがやけ

横浜市立南小学校 6年 桐原 慧

「ナンバーワンにならなくてもいい もともと特別なオンリーワン」ほとんどの人が知っているこの歌。世界に一つだけの花の歌詞。ぼくには何か引っかかった。

スポーツをしているぼくにとってナンバーワンを目標としているし、ナンバーワンになるために日々努力している。ではなぜナンバーワンを目指しているのだろうか。

まず達成感はずいものだろう。オリンピックでエースだったり、キャプテンをしていたりする人達を見ると、やはりあこがれる。そしてもし自分がナンバーワンの位置にいけたら、想像しただけでもワクワクできる。これがぼくにとってのナンバーワンだ。

一方で、ぼくの友達に「これなんだろう。」「これは、くろアゲハの幼虫だよ。」と、とっさに答えてくれる子がいる。

さらに、虫の特ちょうやよさを周りに伝えることができる。その子が心おどるように、虫の話をしてくれると聞いているぼくもまた、ワクワクしてしまう。そんな彼が、ぼくにとってのオンリーワンだ。

彼を見ていてぼくにもオンリーワンがあると気付いた。それは、仲間との連携だ。そのために話をしたり、声を出すことをがんばっている。

今、自分の中で光り始めたオンリーワン。そんなオンリーワンをかがやかせナンバーワンを目指していく。

未来のぼくは、やはりナンバーワンでいてほしいけど、そんな願望をいただいているぼくはオンリーワンでありたい。

4 10年後の私へ

横浜市立永田台小学校 6年 加藤 柚希

未来の私に手紙を書くのは初めてなので、少しドキドキしています。10年後の私は元気に幸せに暮らしていますか。今の私はときどき困ったり悩んだりすることもあるけれど、毎日楽しい生活をしています。

今年は小学校生活ラストの夏です。夏祭りではクラスのみなんとソーラン節の和太鼓とダンスに挑戦したり、チアを踊ったり、浴衣を着て大好きな友だちとみんなで花火を見て最高の思い出ができました。お母さんもこの町で生まれ育ったから、お祭りで同級生と楽しそうに話しているのを見て、10年後もこのお祭りが続いてほしいな、そしてまた花火をみんなと一緒に見たいなと思いました。

この夏はチアの技が上手くできなくて涙を流すこともあったけど、何度も何度も練習をたくさんして、夏祭り本番、不安で心臓がバクバクしたけど、成功してめちゃくちゃ嬉しかったです。やっぱり私はチアが大好きだなと思いました。これからもチアスピリットでたくさんの人に笑顔やパワーを届けられる人になりたいです。壁にぶつかることがあるかもしれないけれど、どんなときもあきらめないで乗り越えられる自分になりたいです。

今の私にはなりたいものがたくさんあります。ずっと小さいころからあこがれていたかわいい子どもたちと関わる幼稚園の先生。大好きなチアの楽しさを教えるチアの先生。そして、初めて飛行機に乗って、優しく声をかけてくれてすてきだなと思ったキャビンアテンダント。「おばあちゃんも昔なりたかったんだよ。」と教えてくれて、興味を持ち始めました。

10年後の私は夢を叶えてもう仕事をしているのかな。それとも大学で勉強しているのかな。どんなお姉さんになっているのかとても楽しみです。おしゃれでかわいい人になりたいし、いつかは、

お母さんにもなりたいです。

未来には空飛ぶ車とかがあるのかな。宇宙にも簡単に行けるようになってるのかな。お家にドラえもんみたいなロボットがいたら楽しいだろうな。便利な事が増えても今と変わらない良さは残っていてほしいな。

私は最近家族などに強く言ってしまう事もときどきあるけれど家族を大切にします。たくさん親孝行してね。

お父さん、お母さん、おばあちゃん、お兄ちゃん、いどこみんなが元気で幸せでありますように。

もうすぐ私は中学生になるから苦手な勉強もがんばります。いろいろな人と出会ってたくさんの友だちを作りたいし、今の友だちも大親友ともずっとずっと仲よしでいたいです。

これからも困難にも負けないで強い自分になれるように、明るく前向きにチャレンジしていきます。未来の私に「よくがんばったね」と言ってもらえるように…。

5 未来の私へ

横浜市立永田台小学校 6年 藤岡 沙世

未来の私は今どんな生活を送っていますか。しっかり仕事もして社会の役に立っていますか。

私は小さいときからずっと変わっていない夢があります。その夢は看護師という職業に就くことです。どうして看護師の職業に就きたいのかそれは2つの理由があります。

1つ目は、看護師として働く人の姿が真剣な姿だったところにあこがれました。真剣な姿以外には、集中している姿、笑顔いっぱいな表情、優しい瞳など、たくさんの姿や行動にひかれていきました。私が熱やぜん息で苦しい時に病院に行くと、看護師の人はまるで私が安心するように、「大丈夫だよ。安心してね。」と表情や瞳で伝えてくれるようでした。それを見るたびに自分の夢になっていきました。看護師になった自分の姿と重ねて想像をしてみると心がおどりと、ワクワクします。私も、私があこがれた看護師の人になりたいです。

2つ目は、私自身たくさんの看護師のみなさんに助けられてきたからです。私は今まで数えきれないほどの回数、病院に行ったことがあります。熱が出た時、ぜん息が出た時、骨折をした時など、色々な事情で病院に行ったことがあります。熱で病院に行くと薬の用意をしてくれたり、ぜん息で病院に行くと、吸入器の準備をしてくれたり、骨折で病院に行くと、包帯を優しくまいてくれたりなどのことに、助けられてきました。今でもその恩を忘れたことはありません。

そして、私は看護師の人たちに助けられていくうちに私も看護師になってケガや病気で苦しむ人々を助けたいという思いが強く感じられることが増えていきました。

私は夢を叶えるために、これからは医学についてたくさん学んでいきます。そして努力をつみ重ねて看護師になるという夢に進んでいることを信じています。また、どんな職業に就いても真面目に真剣にがんばってください。私も夢を叶えるために一生懸命、勉強をがんばります。

6 未来の私は元気ですか。

横浜市立六つ川西小学校 6年 久松 小粋

こんにちは。成人おめでとうございます。お元気ですか。私はとても元気です。私は今趣味も大切にできて、仲間もいて、頼れる人たち大勢と一緒に楽しく生きています。あなたは今、楽しく不自由なく生きられていますか。

私は今、指先などの肌が荒れてしまう体質と戦って生きています。ですが、昔に比べてこの体質はとても良くなってきてます。未来ではこの体質は治っていますか。治っていたらとても嬉しいです。未来では、大きな病気に苦しんでいませんか。危険なことや、無理だけは絶対にしないで生活してください。

行きたい学校には行けていますか。動物関連の学校に行けているといいですね。そしたらなりたい仕事に就職しやすそうですもんね。応援してます。がんばってください。

仕事は上手くいっていますか。私は今動物関連の仕事をしたいと思っています。今は、なんの仕事をしていますか。楽しいこともあれば辛いことだってたくさんあると思います。でもいつかは辛いことが無くなるかもしれません。希望を捨てないで生活してください。家族だって友達だって頼れる仲間はたくさんいます。誰ひとり、頼っちゃいけないなんて言っていません。相談するだけで気持ちは軽くなります。仲間を頼って生きていってください。嫌な時は嫌だって正直に話していいんです。自分に嘘をつかず、正直でいてください。いつでも仲間はいます。あなたを支えてくれる仲間がたっくさん。

今の私の趣味は絵を描くこと、犬と遊ぶことです。あなたはまだこの趣味が好きですか。新しい趣味が増えているかもしれないですね。それだったらとても嬉しいです。得意なことも増えているといいですね。

大人になれば大変なことが少しずつ見えてくると思います。でもすごく頑張ろうとしなくてもいいんです。少しずつでいいから頑張っていけばいいんです。「まだ子供で社会もあまり知らないのになにが分かるんだよ。」とあなたは思うかもしれません。そうです。私はまだあまり社会の大変さを分かっていません。でもあなたによりそってあげたいんです。まだ子供な私ですが、約束してください。自分を大切にしてください。そして、仲間達も大切にしてください。仲間を見捨てるなんてこと絶対にしないでください。自分を支えてくれた仲間を支えてください。だからといってすごい力になろうとか思わず、ただ相談にのってあげられるだけでいいんです。あなたならできます。そう信じています。あなたが今辛いことがあり、たとえ幸せじゃなくても、いつかは幸せになれる時が来ることを願っています。新しい仲間をつくってみたり、まだやったこともないことにチャレンジしたりして、子供の時みたいに楽しく、ネガティブな思考なんか消して、何事もポジティブにとらえて生きてください。私はあなたの味方です。いつまでも諦めず、適度でいいので頑張ってください。

小学生の部

テーマ2 私の好きな南区

(人、場所など)

1 大好きなサッカーと南区

横浜市立南小学校 4年 青野 龍馬

ぼくの夢は、サッカー選手になることです。4年生になり、2つのサッカークラブをかけもちしています。そのどちらも南区にあり、大好きで自まんでできるサッカークラブです。

まず1つは、バディーくるみサッカークラブです。水曜日と木曜日の夕方、くるみ幼稚園で活動しています。ぼくは年中からサッカーを始めて、6年目になります。園庭はせまいけれど、幼稚園から一緒に仲間やコーチとサッカーができるのは貴重です。去年のバディー杯では、仲間と協力してねばり強く戦った結果、バディーくるみサッカークラブが優勝してとてもうれしかったです。

もう1つは藤の木サッカークラブです。土曜日の午後と日曜日の午前中に、藤の木小学校で活動しています。藤の木サッカークラブに入部したら、学年問わず、南区に住む友達がたくさん増えました。また、去年の南区大会は負けてしまったけど、あすなる大会では2連覇を達成しました。部員が少ないのがなやみですが、4年のキャプテンとして、仲間をしっかりとめていきたいです。

そしてサッカーをする上で、一番大切に欠かせない場所が、みうら湯駐車場の横にある「中里一丁目子どもの遊び場」です。みんな「空き地」や「ガード下」と呼んでいます。上に京急線が走っている所以屋根がわりになり、雨の日も暑い日も、ほぼ毎日ここでサッカーの練習をしています。時には、家族や友達とミニ試合を行い、それも楽しいです。

コロナでサッカークラブがお休みになった時も、ぼくはこの空き地で、毎日ドリブルやリフティングの練習をしていました。そのおかげで、コロナ後はサッカーがぐんと上達し、バディー育成クラスにも合格できました。忘れられない思い出です。

空き地はぼくのひみつ基地でもあり、いやなことがあったり、お母さんに怒られたりしたときも、ここでボールをけていると不思議と落ち着きます。ぼくにとって、本当に大好きで大切な場所です。だからこの先、危ないとか、子どもの声がうるさいとかいった理由でサッカー禁止にされたり、空き地自体がなくなってしまうたりすると、とても困るし悲しいです。また、空き地にごみが散乱していたり、地面がへこんでいたり、サッカーどころではない時もあります。担当のしょく員さんが定期的に見回りに来てくれるとありがたいです。

ぼくは、サッカーで南区をもっと盛り上げていけたらと考えています。大岡公園や清水ヶ丘公園でサッカーの体験会や試合の見学会を開いたり、南区ゆかりのサッカー選手を招いて、区役所や商店街などでサッカーイベントを開いたりして、地域の人たちや子どもたちに、もっとサッカーに親

しんでもらえたらと思います。そして、ぼくも南区出身の有名なサッカー選手になれるように、空き地での練習を欠かさず、2つのクラブでサッカーを続けていきたいです。

2 私の地域のお祭

横浜市立南小学校 5年 高橋 杏奈

私の地域では夏に1～2日間、お祭を開いています。もちろん、このお祭にはたくさんの人が関わっています。たいこやふえなどの音を出すおはやし、しゃくじょうを地面について悪りょうを追いはらう金ぼう、そして、おみこしを担ぐ担ぎ手などです。このお祭がある事は知っていたけれど、見るものだと思っていて参加したことはありませんでした。

今年の6月ごろ、地域の方から、

「お祭の金ぼう役をやってくれませんか。」と聞かれたことから参加することになりました。そのとき私は、なんだかむずかしそうだなあこんなに暑いのになんでやるのかなと思いました。練習などをしてすごしていくうちに、地域の方たちが話をしてくれました。

「この祭は昔からやっていて、おじさんの娘も、娘の子供も参加しているんだよ。」

「もともと神様に感謝する目的で始まり、今ではお祭の日にお供えをして、おみこしに神様をのせて担ぎ、町を周ることで災なんやけがれを清めてくれると言われてるよ。」と。私の父母は他県出身で、私が生まれる時に引越してきたので、歴史や意味をくわしく知らなかったけれど、昔からある大切なお祭なんだなと知りました。

お祭当日、衣しょうに着替え美容室でお化粧ときっちりとしたかみがたに整えてもらい、はちまきを巻いて完成しました。かみの毛をぎゅっと結んでもらっている時、きん張して心配になってきたけれど、よしがんばるぞと心に決め、出発時点へ向かいました。いざ始まると、大勢の人が参加し、たくさんの人が見に来ていて自然とせすじが伸びました。金ぼう役は、大切なおみこしの前を歩く重要な位置です。きんちょうよりも暑さよりも、金ぼうで地面を鳴らし、しっかり前に進むことに集中していました。お祭が終わると、

「びしっと歩いていてかっこよかったよ。」

「金ぼう役をやってくれてありがとう。」

など、たくさんの人が声をかけてくれてやってよかったと感じ、お祭の一員になれたことがうれしかったです。

最近は、人手不足や地域行事の参加者ばなれでお祭が行われない場所もあるそうです。コロナ後や熱中症のえいきょうで、中止にしなくてはいけないこともあるようです。仕方がないこともきつとあると思いますが、昔から続く大切なイベントは少しでも多くの人に知ってもらい、参加してもらうことでこれから先も続いてほしい、と私は思っています。

私の地域のお祭は、今年も開かれます。いろいろな人に金ぼう役をやってほしいと思ったけれど、引き受けてくれる人がいなかったようで、今年も私が金ぼう役をやります。金ぼう役は2人必要

なので友達をさそって参加することになりました。私はこれからも、このお祭が続くことを願っています。

3 南区の魅力

横浜市立南小学校 5年 志井 詩

私は南区が好きです。南区には親しみやすい人がたくさんいます。皆さんが住んでいる所にはどんな人がいますか。私が思う南区のいいところを3つ紹介します。

1つ目は、南区にはとても子どもたちのことを考えてくれる優しい方がいることです。私の近所では、登校班で学校に行きます。その時、近所の大人の方が毎朝見守りをしてくれます。だから、学校に行く時、とても安心できます。忙しい朝に、地域の子どものために時間を使ってくれるので、とても子どもたちのことをよく考えてくれているなと思いました。毎朝見守りをしてくれる方がどこにでもいるわけではないと思うので、南区に住んでいて良かったなと感じています。

2つ目は、南区には楽しく遊べる友達がいることです。私が住んでいる近所では、毎年のように夏休みの最後に花火をやっています。近所の子どもや大人もとても楽しんで、みんなで花火をたくさん集めて行っています。私はとてもいい友達や人に恵まれているなと思っています。たくさんの素晴らしい人がいるのは、南区の魅力なのではないかと思います。

3つ目は、弘明寺商店街で好きな家族や友達と楽しく行けるイベントがあることです。春には桜が満開になって屋台も出ます。人もたくさんいて、とてもにぎわっています。私もこのイベントに行ったことがあります、楽しかったです。夏には縁日があります。「さんばち」といって、夏の3と8が付いた日に行われます。屋台が出たり、たくさんの飾りがあったりして、見るだけでも楽しめます。秋には、ハロウィンのイベントがあります。たくさんの人が仮装をして商店街に来ます。お菓子がもらえたり、お店巡りができたり、みんなの仮装を見るだけでも、とても楽しいです。冬には、商店街がクリスマス仕様になって音楽も流れます。お店にも、普段はないものが売っていて、とても楽しいです。私はすべてのイベントに行ったことがありますが、どれも最高でした。

私が思う南区のいいところを3つ紹介しました。この3つに共通するのは、南区の方々がとても親しみやすいことだと思います。私も、誰かが困っていたら助けたり、もっとたくさんの人と触れ合ったりしていきたいです。そして、そんな私が好きな南区のいいところが変わらなければいいなと思います。

4 ありがとう「ヨコハマみなみ夏まつり」

横浜市立六つ川西小学校 6年 山田 怜奈

皆さんはこの夏、南区のお祭りに参加しましたか。

私は、永田台小学校で行われた「ヨコハマみなみ夏まつり」に参加しました。このお祭りは8月17日、18日の2日間に渡って開催され、18日夜には花火が上がりました。私は2日間このお祭りに参加しましたが、2日とも会場からあふれるほどの人達が集まっていて、警備の方がつくほどでした。歩くだけでも汗をかく、大変熱気あふれるにぎやかな場所でした。

私はお祭りに参加して、楽しかったのですが、それだけでなく驚きもありました。

まず楽しかったことは、会場のイベントとして、太鼓、ダンス、盆踊りなどがあったことです。イベントを行っている方々は年齢が様々でしたが、みんな笑って楽しそうにしていたのが印象的でした。友達や家族とたくさんの出店を回って食べたり、ゲームをしたりして楽しかったです。花火もとてもきれいでした。

次に驚いたこととして、これらのイベント出店、花火、周辺の警備など、地域の方々が声を掛け合い、お互いに協力しながら運営している姿に気づいたことです。2日連続でお祭りを開催していて、私は「よくこの猛暑の中、みんなに楽しみを提供してくれているな」と驚きました。運営している方々の「地域の皆さんに楽しんでほしい」という強い想いが会場でこのような姿につながったのだと思います。

私は、この素晴らしい地域のお祭りに参加できてとても楽しかったし、感謝しています。今後もこのお祭りが続くことを強く願っています。できればこの感謝の気持ちをいつか運営の方々に伝えられたらいいなと思います。

小学生の部

テーマ3 ルールとマナーについて

(スマホ、ゲーム、お酒、たばこ、薬物など)

1 スマホのルール

横浜市立南小学校 5年 和田 茉央

みなさんは、スマホのルールについて、どんなものが思いうかびますか。一般的には、「歩きスマホはしない」「時間を決める」「知らない人と話さない」などのルールがあると思います。さらに、ルールと一緒に、守らなかったときの罰もあるでしょう。私は、罰を受けるのがいやだから、ルールを守っています。それでも、たまに、ルールをやぶってしまうことがあります。私は、罰以外の方法で、ルールを自ら守れる方法がないかと思いました。そこで、なぜこれらのルールが必要なのかを考えてみることにしました。

「歩きスマホはしない」はどうでしょう。私は最初、なぜ歩きスマホをしてはいけないのか分かりませんでした。そこで、インターネットで調べてみると、「歩きスマホをしていると、周りへ注意がいかなくて転んだり、他の人とぶつかってケガや事故につながったりしてしまう」とかいてありました。私は確かに、スマホをいじっているときに家族に話しかけられても気づかないことが多いので、道路を歩いているときだったら事故になると思い、ぞっとしました。私はケガをするのがいやなので、歩きスマホはしないと決めました。

次に、「時間を決める」について考えてみました。私は、このルールは大切だと思います。私がそう思う理由は、2つあります。1つめの理由は、短期的な体への影響があるからです。私がスマホを買ってもらったばかりのころ、楽しくて1日中使っていたら、頭と目が痛くなってクラクラし、ねこんでしまったことがあります。2つめの理由は、長期的な体への影響があるからです。長時間スマホを毎日使い続けたらどうなるのか調べたところ、「姿勢が悪くなったり、視力が低下したりする」とかいてありました。自分が経験したこと以外にも、もっと大変なことになってしまうと分かりました。私は、健康をそこなうのがいやなので、体にふたんの無いはんいで時間を決めてスマホを使おうと思いました。

では、「知らない人と話さない」はどうでしょうか。私は、このルールもとても重要だと思います。なぜなら、知らない人から電話やメッセージが来て、どうしていいか分からずに困ったことがあるからです。今回調べたページでは、「知らない人の電話やメッセージに返事をする、詐欺にあっってしまった、個人情報盗まれたりする」とかいてありました。私は、知らない人からの電話やメッセージに返事をする、子ども1人ではどうしようもできない事件にまきこまれると気づき、こわくなりました。これからは、知らない人からの電話やメッセージが来ても、無視しようと思いました。

このように、私は、それぞれのルールの意味を知ること、そのルールの大切さを理解することができました。これは、罰よりももっと強く、私の行動に影響をあたえました。そのルールの大切さを理解すれば、自ら守ろうと思えるようになると思います。

2 たばこを吸う場所本当にあってる

横浜市立藤の木小学校 6年 丸山 愛莉

みなさんの身の回りに、たばこを吸っている人はいますか。私は身内にもいます。

多くの方は、喫煙所などの、たばこを吸っていい場所で吸っています。しかし、学校の前や公共の場で吸われると、不快な気持ちになりませんか。私は、たばこを使う場所を考えてほしいと思いました。

例えば、たばこの煙を吸うとがんや心臓病になってしまう原因になります。また、一酸化炭素の影響を受けて、集中力の低下などにつながってしまいます。特に学校の前などで吸っていると、小学生の脳や健康状態に影響を及ぼしてしまいます。別にたばこを吸うことを否定はしません。しかし、自分のせいで他の人の体に害がでると考えるとたばこを吸いにくくなりませんか。たばこを吸うときは、本当に吸っていい場所なのか、他の人の迷惑にならないか考え直すと思います。

しかし、中には貼紙や看板に「ここでたばこを吸わないで」や「禁煙」と書いてあっても吸いたくなくなってしまう人もいるでしょう。そんな人は、まず喫煙所などで吸う習慣をつけるのも1つの手段としておいてもいいのではないのでしょうか。最初は変かもしれないけれど、だんだん慣れてくればそれが普通になるかもしれません。もう一つの手段として、もうたばこを吸わないこともおすすめします。やめて2～3日は、ニコチンの離脱症状が強くなり、めまいや疲労がおこります。しかし、7～10日たつと症状が消えるので、その方法もいいと思います。これはそう簡単にできることではないと思いますが、一人一人が心がければ、たばこの煙での死亡率も減ると考えられます。

このように、たばこを吸う場所を誤るとたくさんの人の健康状態に影響を及ぼしてしまいます。たばこを吸う場所をもう一度確認し、本当にその場所で吸っていいのかを考え直して、他の人のことも頭に入れてほしいです。みなさんも一緒に心がけて、たばこを吸っていない人も吸っている人もみんなが気持ちよく過ごせる社会にしていきたいと思います。

小学生の部

テーマ4 自由課題

1 思いやりのある社会へ

横浜市立南吉田小学校 3年 宮下 知也

「ぼぼくの名前は宮下知也です。」

みなさん、少し変わった話し方に聞こえると思います。

ぼくは吃音という障害を持っています。吃音にも色々な種類があります。ぼくの場合は、始めの言葉が出にくくて何回も言ってしまいます。なぜか歌を歌っている時、症状は出ません。なめらかに話せる時もあったり、言いにくい時もあったり、その時によって遠くなります。ひどい時には、疲れて話すことを止めてしまいます。吃音がわからない人にはわざと話していると思われてしまいます。でも違います。それが吃音なのです。親に聞いたら4歳くらいから吃音になりました。原因はわかりません。

幼稚園の時から2年生まで吃音が原因でいじめにあったことがあります。一生懸命話しているのにまねされたり、吃音のことを昔はどもると言っていて、「どもや」と言われたり、「うつるから逃げよう」などと言われたこともありました。吃音のことを知らない大人の人にも険しい顔されたりしました。ぼくは人と話すことが大好きなので、とてもとても悲しい気持ちになりました。それとは、反対に一生懸命話しているねと言われた時は、とてもうれしかったです。

前に、吃音の人たちが集まる会に参加したことがありました。それがきっかけで3年生からことばの教室に通っています。普段の授業を抜けて通うので同じクラスの子に何で通っているのかを説明する機会をつくってくれました。吃音とは何か、わざと話しているのではない、まねをしないでほしいなどを話しました。クラスの友達にはわかってもらって、ぼくが話している時には、今まで以上に応えんをしてくれてとてもうれしいです。

よく、障害は個性だという人がいます。ぼくは、そのようには、思いません。吃音になりたくてなっているわけではないし、治る人もいるからです。

もし、吃音の人に出会ったら温かい目で見守ってもらいたいです。人と違った話し方をしていると思っても指摘しないで欲しいです。障害がある人もない人もすべての人々が生きやすい社会になりますように。朝起きたら吃音が治っているとどんなにうれしいか。いつか治りますように。

2 ぼくのすごい友だち。

横浜市立永田台小学校 3年 永窪 舞与

ぼくの大切な友だちの1人をしょうかいします。その人は、ダウンしょうがある30代の女の
人です。ぼくのお母さんが作った、障がいのある人たちのダンスチームのメンバーです。このチ
ームができた5年前からいるので、ぼくが3さいのころからの友だちです。お仕事は、南区でおい
しいクッキーやケーキを作っています。ぼくはそのおかしたちを、その人といっしょに売るお手伝
いをしています。

今年の夏休みは南区のほいく園でいっしょにクッキーとやさいを売りました。その人はえがおで
やさしくせっきゃくをしていました。ぼくもつられていっしょうけんめい声を出して売りました。
おきゃくさんたちは、ニコニコのえがおで、「ありがとう。」と言っていました。すぐに売り切れて
ぼくはかんどうしました。みんながえがおだったので、その場所がとてもよいふんい気につつまれ
ていました。

ぼくの友だちのすごい所は、このような仕事にくわえて、ダンスも上手な所です。仕事を終えたら、
ダンスのレッスンに行っておたくさんおどります。そして、たくさんステージでひろうしてい
ます。ここでもおきゃくさんをえがおにしています。自分たちのダンスを見ておきゃくさんが楽し
んでくれることが一番うれしいそうです。

障がいのある人たちの仕事でもらえるお金はとて少ないと、お母さんから聞きました。ぼくは
もっと障がいがある人たちがお金をかせげるようになってほしいと思います。なぜなら、ぼくの友
だちのように障がいがあってもすごい人はたくさんいるからです。そのためには、たくさんの方が
クッキーを買ったりダンスをおうえんしてくれることが大切だと思います。ぼくはこれからも友だ
ちといっしょにいろいろなことにちょうせんしようと思います。

3 世界みんながやさしい気持ち

横浜市立永田台小学校 4年 栗原 かな

私は、夏休みに「コエノカタチ」という映画を見ました。主人公の女の子は、転校生で、はじめ
てクラスみんなに会った時、よろしくねと書いた紙をみんなに見せました。そのシーンで私は、「主
人公の女の子は、耳が不自由」なんだと分かりました。

女の子は、耳が不自由なのでしゃべるのがむずかしいという理由でみんなからひどいじめに
あってしまいます。つけている、ほちょうきもとってもこうかなものなのに5か月で8台もこわ
されてしまいます。私は、自分がこわされたかのように見ているだけでとても悲しい気持ちになり

ました。

いじめている人は、ほちょうきが気持ち悪いなどと言っておもしろがっていじめていたかもしれないけれど、いじめられた人は、とても悲しくて「耳がきこえていたら、いじめられていなかったのかな」とくるしい思いをたくさんしてしまうと思うし、もし、いじめていた人があやまったとしても、心のきずは、一生きえないと思います。そんな悲しい思いをする人が、少しずつでもなくなってくれたら、みんなが幸せになるなあと思います。

もし、私の耳が不自由だとしたら、みんなの声がききたいし、手話というコトバをつかって会話をするのが私たちの世界にあるなんて、とてもステキな事だと思ったので、私も手話をおぼえたり、1つ1つのコトバをだいじにしていきたいし、みんなにもして欲しいです。

4 妹のぼうし

横浜市立南吉田小学校 5年 山田 幸彦

5才のぼくの妹はうすむらさき色のぼうしを持っている。春夏用でうすくてやわらかい。5センチくらいのリボン型のかざりが1つ付いている。「チャーム」っていうらしい。とう明なぷよぷよしたリボンの中に、いろんな色のスパンコールが入っていて、キラキラ光る。妹はすごく気に入っていて、どこにおでかけするにもかぶっていく。3才の下の妹はちょっとうらやましそうだ。

去年の夏休みにお父さんの実家に帰省したときももちろんかぶっていた。妹は、おばあちゃんに見せて「かわいいでしょ。」とじまんした。チャームの根元に小さい金具がついていて取り外しできることが分かってからは、チャーム単品で遊んでいた。

1週間後、家に帰ってきたとき、ぼうしにチャームが付いていないことに気づいた妹は泣いた。お父さんがおばあちゃんに電話したら、おばあちゃんの家置きわすれたことが分かった。「宅急便で送ろうか？」とおばあちゃんが言ってくれたけど、「そこまでなくていいよ。」とお父さんが断り、妹は「おばあちゃん次に行くまでとっておいてね。」とお願いしていた。ぼくは内心「おばあちゃんちは物がいっぱいだし、無理だろうな。」と思った。

それから、寒い季節が来るまで、いつも妹はあのぼうしをかぶっていたが、「私のぼうしかわいいでしょ。」とじまんすることはなくなった。

1年経ち、今年も夏休みに帰省した。相変わらずあのぼうしもいっしょだ。去年はちょっと大きめだったぼうしも、今年は妹のおでこがぼうしの下からちょっと見えていた。

なんと、リボンチャームはおばあちゃんちにあった。おばあちゃんは忘れていなかったんだ。ぼくたちは1年ぶりにおばあちゃんと会えたし、妹も1年ぶりにぼうしをキラキラにできた。

おばあちゃんが赤い糸でチャームをぼうしにぬい付けてくれた。付け外しできなくなったけど、もうなくすことはない。

ぼくが小学校入学から使っているスヌーピーの上ばき入れのふくろはお父さんのお下がりだ。お父さんの記名の上から、ぼくの名札の布をお母さんがぬい付けた。お父さんが小学生のときに体そう着ぶくろとして使っていたそうだ。1年生のときは、新品を買ってほしかったと思ったけれど、

5年生の今は、色あせているのが大人っぽくていい感じだ。ところどころ小さな穴があいているけれど、小学校を卒業しても、捨てずにとっておこう。

モノの価値は値段じゃない。そのモノを大切に思う「気持ち」と「時間」がモノを宝物に変えていくんだと思う。

来年の夏休みは、今度は下の妹が、あのキラキラのぼうしをかぶっておばあちゃんに会うだろう。

5 街をきれいに

横浜市立南吉田小学校 5年 渡邊 孝基

夏休み期間中ぼくは家の手伝いとして、ゴミ出しをすることにしました。ゴミ出しを続けていると自分の家のゴミだけでなく、曜日を間違っただけで出し置かれているゴミや、カラスや風で散乱しているゴミなど、街のゴミの事もすごく気になるようになりました。

ぼくの通っている小学校で6月頃に横浜市南区役所の人が今年から来年にかけて分別方法が変更になることを説明してくれたのを思い出し、ぼくは横浜市のホームページでどのように分別方法が変わるのか調べてみることにしました。

そこには南区は来年の4月からプラマークがついているもの以外にも、今まで燃えるゴミとして回収していたプラスチックのみでできているものもプラスチック資源として出せるようになると書いてありました。でも、金属等のプラスチック以外での素材を含むもの、50センチメートル以上のもの、厚みがあり固いもの、発火の危険があるものは対象外だそうです。

この事を家族に伝えたところ、初耳だったようで、「えっ、本当なの？」と何度も繰り返し、さらに「今までプラマークが付いているものはプラゴミへ分別できていたけれど、マークがないと分かりにくくて、分別できるかな？分別はしたいし、いいことだと思うけれども、なかなか覚えられそうもないな。」と、分別方法の変更に複雑な気持ちを持っていました。

ぼく自身もおばあちゃんの家が横浜市外なので、遊びに行った際は分別ができずおばあちゃんに分けてもらっているのが現状です。だから、ぼくは、簡単に覚えられるように、誰にでも分かりやすくできるように、全国统一すれば良いのだと思います。でもなぜ今は統一していないのでしょうか？

ぼくは疑問に思い、ネットで「なぜゴミの分別は地域によって違うのか。」と検索してみました。

「ごみの処理は国ではなく市町村の仕事とされており、市町村が地域の実績等を踏まえて分別方法を独自に定めることから、分別区分等に違いがある。」とのことでした。

ぼくは決める人が違うので、地域によって違いがあることは分かりましたが、環境問題は大切と言われてこの時代になぜあえて複雑にするのかな？と感じました。

ぼくは分別方法を変えるなら、全国统一にしたマークを決め、誰にでもすぐに分かるようにした方が良いと思います。

誰も自分の住んでいる街が汚くなればいいと思っている人はいないはずです。同じ方向に進んでいるので、少し手助けするだけで、ぐっと良くなると思いませんか？ぼくはきれいな街になることを願っています。

6 自分らしく生きてゆく

横浜市立南小学校 5年 小泉 拓真

ぼくは、男の子でかみを伸ばしています。そして、かわいいものが好きです。どうしてかみを伸ばしているのと思う人も多いでしょう。理由は2つあります。

1つ目は、ヘアドネーションをしたいからです。2つ目は、ぼくの好きなかわいいものや服には、長いかみが合うと思ったからです。

かみを伸ばし始めてから、今までにあった事を話します。

ぼくは、1年生になる少し前から、かみを伸ばし始めました。かわいいものは幼稚園のころから好きでした。初登校の日には、後ろで結べるぐらいにまで伸びていました。

その初登校の日に、

「男なのに、なんでかみ長いんだよ。」と言われて、ヘアゴムをほどかれました。そのときのぼくは、はらが立ったのと同時にすごく悲しかったです。

もう1ついやだったのは、女の子と間違えられる事です。何回も間違えられた中で、特にいやだった事があります。

それは、ぼくがトイレをしているときに起こりました。ぼくの顔を見て上級生が

「ヤバッ。」と、大きな声で言ってきました。なんでヤバッと言ったかは分かりませんが、とてもやさしくない言葉だと思いました。

だけど、こんな良い事もありました。

初めてかみがたをハーフアップにしたとき、似合っているか不安だったけれど、友達が

「似合ってるね。」と言ってくれました。先生も

「すてきだね。」と言ってくれました。

一番うれしかった事は、最初に話したヘアゴムをほどかれたときに兄が、

「そういうことは、やめた方がいいよ。」と、相手に注意してくれました。

こういう良い事が、自分らしく生きることを応援してくれているように感じました。

最後に言いたいことがあります。ぼくは、1年生のときに、こんな三行詩を書きました。

「たくまはかみをのぼしたい。けどどわらうひとがいる。みんなが好きなことができるみらいにしたい。」

ぼくは、5年生になって、こんなことを思っています。お店に行ったときに、男の子コーナー、女の子コーナーに分かれていると、ぼくは行きづらいです。また、コーナーが同じでも、男の子だからかっこいいもの、女の子だからかわいいもの、世界から言われていたら、本当にほしいもの

が買えなくなり、自分らしく生きることが出来なくなってしまいます。

ぼくは、男の子の子の関わりなく、好きなものを身に付けたり、かざったりすることができる未来にしたいです。そのためにぼくは、自分らしく生きている人や、生きようとしている人を応援します。

7 わすれない努力

横浜市立南小学校 5年 平尾 柚葉

私は、4才から英会話を習っています。始めたばかりのころは、小さかったからという理由もあると思うけれど、ただ楽しく習っていました。

けれど、小学生になってから、内容がとてもむずかしくなり、発げんしたりするのができなくなってしまいました。そのときは自分でも「どうしよう。どうしよう。」と思っていました。それは自分だけのことだと思っていて、毎日CDを聞いたり、発音の練習などをしたりしていました。

そのうえ、わたしだけがなやんでいたと思っていたことが、わたしの友達から、

「最近の授業って、発音とか文章とかむずかしくてついていけないよね。」

と言われました。その友達は、いつもスラスラと発げんをしているように見えたので、とてもおどろきました。そう思っていることがわかり、他の人にも聞いてみたら、みんながそう思っていることがわかりました。

しかし、なぜわたしがそう思っていたかということ、みんながしっかりとCDを聞いて、発音の練習をしていたからということがわかりました。それからは、わたしもみんなに負けないように、毎日CDを聞いて、発音の練習をがんばりました。それから3か月ほどたったころに、英会話の授業参観がありお母さんや友達のお母さんが、

「英語の発音とても上手になったね。」

と、言ってくれて、とてもうれしかったです。

それを毎日、3年間ぐらいつつと続けていたら、しっかりと発げんができるようになり、おもな文章だったら読むことができるようになって、昔よりさらに楽しく感じるできるようになりました。友達やお母さんたちのおかげで、勇気をもつことができたのです。

今年、英会話の教室でなっている人たちがあつまって、スピーチコンテストがあります。もちろん自分で文を考えて、1人で大勢の前で発表するので、とてもきんちょうします。けれど、今までの友達やお母さんたちの言葉、自分の努力を思い出して、最後までしっかりと、おどろかれるような発表をしたいと思っています。みなさんも、なにがあっても、努力は大切なことだとわすれないで、ものごとにとり組んでみてください。

8 あきらめない心

横浜市立六つ川台小学校 5年 川崎 元翔

僕の目標は、水泳のジュニアオリンピックに出場すること。そしてメダルを獲得することだ。

僕は、6歳から水泳を習っている。その時は「速く泳ぎたい」という感情は全くなかったし、むしろレッスンのある日は、家を出る前から泣いていた。

僕が通っているスクールには月に1度泳力のテストがあり、合格しないとずっと同じクラスにいる。僕はずっと同じクラスにいる時期もあった。合格できる日が続いていくと水泳の面白さを知り、もっと速く泳ぎたいと思うようになった。僕のスクールは選手研修クラスに入らないと次のステップにはすすめない。そのことを知り、休みの日には市のプールに練習しに行ったり、本でうまくなる方法を何度も読み返し見たりした。とにかく続けた。研修クラスにはコーチからの推せんがある。しかしその推せんは遅くとも小学2年生までで声がかかる。僕はすでに小学3年生になっていた。僕は担当のコーチに「選手研修クラスに行くには推せんがないとダメですか」とたずねた。「うん、そうだけど行きたいの？」と聞かれ、僕は即答で「はい」と答えた。たぶん生徒からコーチに自ら聞くことはないのかもしれない。「わかった。おぼえとく」と返ってきたのでやっぱり無理かと思った。ところが、後日選手研修2のクラスを体験し、翌月から正式に入れることになった。あきらめなくてよかった。

これまでとは違い週5日の練習がはじまり、同じ学年でも体格やスピードの違いなど、レベルの違いをととても感じていく。これまでとは違うクラスの雰囲気緊張してしまい、あまり話せなくなった。2つ上の先輩がいろいろと話しかけてくれた影響で、まわりの仲間も気軽に話しかけてくれるようになり、少しずつ雰囲気に慣れた。

年度最後の記録会が行われた。その大会はひとつ上のクラスに昇格できる大会。僕はまだ入って3か月でようやく練習には慣れたくらいだったので、その大会も出られないと思っていたが、メンバーが発表される時、自分の名前が呼ばれてびっくりした。名前が呼ばれてから試合当日までの時間が短く感じて、当日は余計に緊張してしまった。案のじょう結果もまったくよくなって更衣室の端っこで静かに泣いた。今でもその時のくやしさを忘れていない。

半年後、自己ベストタイムを更新して昇格した。昇格したクラスは日本水泳連盟に登録して公式の大会に出られる。初の公式の大会は緊張で足がふるえて呼吸もうまくできず結果はさんざんだったが、特別な経験だった。

僕は、泳ぐことが好きな心、昇格した時の心、なによりもあきらめなかった心を大事にしてこれからも目標にむかう。僕は絶対にあきらめない。

9 笑顔でいてほしい

横浜市立六つ川台小学校 5年 齋藤 琉成

ぼくのばあちゃんは、ぼくの家から歩いて30分くらいの所に住んでいる。ぼくが幼稚園のころは、よく遊びに来てくれて、カルタやトランプをした。さいほうが得意なばあちゃんは、ぼくが小学校に入学するときに、給食ぶくろを作ってくれた。今も大切に使っているぼくの宝物だ。最近、学校の授業が6時間の日が増えたり、友達と公園で遊んだり、習い事があったりして、会う時間が減ってしまった。

ある日の夜、家族でごはんを食べていると、ばあちゃんが外出先で転んで、ケガをして救急車で運ばれたと連絡が来た。もう食事どころではない。ばあちゃんが大ケガだったらどうしよう。その数分後、また連絡が来た。おじさんがバイクでかけつけてつきそってくれている。意識はある。検査をするから時間がかかるとのことだ。夕食はぼくの大好物のさし身だったけれど、全くのどを通らなかった。お父さんとお母さんと弟と急いで病院へ行くと、おじさんにつきそわれて病院から出てくるばあちゃんの姿が見えた。うでは包帯をまいていていたいたい。久しぶりに会ったばあちゃんは、とても小さく見えた。いつも明るいばあちゃんの元気がない。ばあちゃんはすまなそうに「バス停の近くの段差につまずいちゃった、心配かけてごめんね。」と言った。

家へ送りどけた後に家族で転んだ場所を見に行った。ぼくはとてもおどろいた。なぜなら、10センチぐらいだろうと思っていた段差は、たったの1、2センチだったからだ。高れい者はこんなに低い段差でも、またげなかったり、気をつけていても転んでしまうんだ…。ばあちゃんは、不幸中の幸いで、買い物をした荷物がクッションの役割をして、うでをだっきゅうした程度ですんだ。もし、頭を打っていたらと想像するとぞっとする。

ぼくは、近所のスーパーへよく行く。手すりを使って階段を上り下りするお年よりや、エスカレーターをしんちょうに乗りおりする姿をよく見かける。今まではそこまで気にしていなかったけれど、ばあちゃんのことをきっかけで、周りをよく見るようになったと思う。ぼくが特に心がけていることは、電車やバスなどで席をゆずることや、自転車に乗るときは、スピードに注意して無理に追いつかないことだ。ぼくがちょっとぶつかってしまったら、大ケガをさせてしまう可能性もある。だから、今まで以上に気を配って行動しようと思う。

ばあちゃんのケガが治ったら、たくさん会いに行って、昔のようにトランプをして、ばあちゃんの笑った顔をたくさんたくさん見たい。そして、ばあちゃんや、みんなのおじいちゃん、おばあちゃんがいつまでも笑顔でくらせるまちづくりをしていきたい。

10 一人一人の心の中に

横浜市立南吉田小学校 6年 石川 倫子

いまや世の中に広く知れ渡っている「SDGs」。これは世界中のみんな幸せになるための目標だと思います。世界中のみんなが幸せになるために、やらなければならないことは、SDGsの項目が17もあることから分かるように沢山あります。しかし私はまず差別をなくす、という事が大切なのではないかと考えます。人々が平等な世界になっていけば様々な課題も解決に向かっていく事ができるはずです。SDGsの基礎は「平等」だと思うのです。

「笑顔で結び繋げよう南吉田」

これは私が通っている小学校、南吉田小学校のスローガンです。笑顔で仲良く、世界中の人と繋がろう。という意味が込められています。そんな南吉田では色々な国の友達が当り前のようになっています。様々な国の友達と毎日関わっていることが南吉田小学校の日常なのです。それもあってか私は学校内で国籍や言葉の違いによる差別をほとんど見た事はありません。言葉が違って一緒に活動するし、日常の会話もして仲良くしています。

私自身の経験をお話すると、時々転校してくる他の国の友達と他の人と同じように仲良くなりたいと積極的にコミュニケーションを取ってきました。それこそ最初は会話が通じなく、相手の子も首を傾げていたし、私も伝わっているかすごく不安でしたがそれでも私は他の子と同じ様に話しかけ続けました。また言葉だけで話しかけるのではなく、より気持ちを伝える事ができるようにジェスチャーをしたり指で示したり、工夫して伝えるようにしました。そうすると会話が通じる事が多く相手の子もにっこり笑ってくれました。それがとても嬉しく、「また友達が1人増えた！」とひとつの達成感を感じます。

世の中に目を向けてみると今の時代は人種差別や男女差別などの差別に厳しく、差別をすると周囲から批判されます。それでもいじめ問題や差別発言などの事件の話が起きています。そもそも子供の頃、つまり私たちの年齢では学校の先生などから差別、いじめは良くないと指導されます。それはもちろん差別しない事が正しいからです。

ですがいじめは起きてしまっています。なぜなのでしょう？どこかで自分と違うと感じる存在を否定したり排除したりする気持ちを持ってしまう人が多いのではないのでしょうか。このことは子供に限りません。大人達も差別してしまっている人が多くなっているのではないですか？もしかしたら差別用語を使っているかもしれません。そんな差別をしている、差別用語などを使っている大人を見て、無意識に真似している子供がいるかもしれません。

なので子供達などは「良くないこと」が分からなかったり、知っていても差別の様な事でいじめが起きるなどの話があふれかえっているのです。

注意するだけじゃ足りません。差別しない事の大切さを世界中の人に、差別しない事を一人一人が心掛けなければならないのではないのでしょうか。

11 「正しさ」はまちがっていない

横浜市立永田小学校 6年 佐伯 美香

私は目玉焼きが好きです。私には目玉焼きの食べ方があります。まず、白身に塩をかけて全て食べます。残った黄身は塩をかけてまろごと口に入れます。私は小さいころ、白身しか食べられなかったので、黄身だけ残して父にあげていました。そのため、このように白身だけ先に食べる食べ方なのです。これが私にとって「正しい食べ方」です。

世の中には「正しさ」という言葉があり、曲がっておらず、ルールにそっているという意味です。私は、「正しさ」は人の数だけあり、その人の個性や考え方の1つであると思っています。この「正しさ」は世界であふれてぶつかっています。

とつぜんですが、犬は人懐っこくてかわいいですよ。犬はかわいい」という考えが正しいと思う人はたくさんいます。しかし、「犬はこわい」と思っている人にとって、その考え方はまちがいになるのです。Aさんは小さいころから犬を飼っているため、犬をかわいがるのが「正しい」のですが、Bさんは小さいころ大きな犬にかまれたのがトラウマで、犬に近付かないのが「正しい」考え方です。この2人は、ちがう「正しさ」をもっていて、どちらも今までの経験がえいきょうしています。Aさんが自分の正しさをBさんにおしつけても、Bさんは自分の正しさがあるため受け入れ辛いのです。もしも「正しさ」の考えがちがう人に出会ったら、自分の正しさをおしつけるのではなく、相手を理解するのが良いと思います。自分の「正しさ」だけつき通さずに、別の見方を受け入れてみませんか。

しかし、どうしても自分こそが正しいと認めさせたい人もいるでしょう。理解せず、相手の「正しさ」を力でねじふせようとする、争いが起こります。これが戦争になるのです。自分の国がもっている「正しさ」を盾にして戦っていますが、悲しいことに、その片手にはいつも手榴弾や銃がにぎられています。「正しさ」と「正しさ」の戦いは、たくさんの命をうばい、今も続いています。国の正しさは無理に広めず、その国だけの特別なものにすれば、他の国を理解すれば、世界はより良くなるはずで

「正しさ」は人それぞれちがっています。でも、人それぞれでまとめてはいけません。私達はちがいの先を見つめなくてはならないと思います。世界はたくさんのおの「正しさ」があふれて比べられています。実際、人それぞれちがうというのは当たり前であり、その捉え方も考え方によって変わります。「人それぞれちがうのだから、あなたが言っていることはまちがい」だなんて、言われたくないはずで

でも、相手の正しさをばかにしないでほしい。この文章だって正しくないかもしれないし、何をえらそうに思うかもしれません。でも、その一つ一つの考えを適切な言葉にして声をあげてください。そして、世界はそれを認めてください。

12 夏の夜の僕

横浜市立南小学校 6年 北村 英介

夏の夜はとても忙しいです。それは、セミが羽化をする季節だからです。

小さな時は虫の牙が怖く虫嫌いでした。ある日、父がセミを捕まえて、口の形がストローみたいでおもしろく、鳴き声は大きくてびっくりしましたが、それ以来、セミが大好きになりました。だから毎年、夏が来るのがとても楽しみです。梅雨の大雨に刺激をうけて、セミたちは地上に出てきます。今年の夏も、多くのクマゼミの羽化を毎日観察しています。

なぜ、クマゼミかというと、体が大きく、鳴き声はワシワシ、シャーシャー大きな声で鳴き、力強さを感じるからです。クマゼミは、日本で最も大きいセミです。祖父の住む長崎では特別大きくてびっくりしてしまいます。図鑑では、羽を含めた全長は63～70ミリメートルと説明があります。真っ黒な体が「クマゼミ」の名の由来です。静岡県以西の平野部に生息していますが、年々、生息地は北上しているそうです。

僕は横浜では珍しいクマゼミが、いつも必ずいる秘密の場所を知っています。僕だけの秘密の場所です。この夏、毎日のように17時過ぎから羽化を観察しています。地上に出てきて18時には木などに登ります。前足で体を固定すると、数分で背中が割れて羽化が始まります。羽化の間はおよそ2時間くらいです。その間、セミは細かく体を震わせながら徐々に白い綺麗な体を出し、次に頭を出します。最後に羽を出します。羽は細かく折りたたまれています。殻から脱皮したあとは、抜け殻にお尻をくっつけたまま、一度仰向けにぶら下がります。木から落ちてしまうのではないかと思います。そこから腹筋運動で起き上がります。前足も硬くなり今度は抜け殻を前足で掴みまです。最後にお尻を切り離し、殻から抜け出します。しわしわだった羽は、伸びて薄緑色の透明になり、次第に黒っぽくなります。100回以上観察しましたが、どのセミもみんな同じ動きをしました。とても神秘的です。セミは翌朝の5時から6時くらいには、いつも見かけるセミになっています。何度か羽化を失敗するセミも見ました。約7年、地中で過ごしてやっと地上に出てきたのに、かわいそうだと感じます。でも、地上に出てきて、木に登り、羽化して飛び立っていく様子を見ると、毎年見ていたくなります。

大きくなったら、クマゼミたちのことをもっと知りたいです。生息地が北上しているのは、地球の温暖化の影響があると思います。地球がだんだん暑くなることで、絶滅することがないことを祈っています。クマゼミが、今後も滅びずに生息できるように、環境と生息を研究できる昆虫博士になればいいなと思っています。

13 努力の結晶

横浜市立南小学校 6年 村上 柊

私には、5才の妹がいます。妹が生まれてから、小さい子と接するのが好きになりました。それをきっかけに、将来の夢は幼い子どもと、関われる仕事につきたいと考えています。

夢を実現させるために、4年生のころから、友だちの妹や弟と、話す時間を増やしています。

しかし、いい事も長くは続きませんでした。最高学年の6年生になってから、1年生のお世話が始まりました。最初のうちは楽しくやっていたのですが、後から大変になっていきました。

大変になったことは2つ、あります。

1つ目は、何を考えているか分からない事です。1年生は学校に来るのが初めてなのできんちょうしてしまいます。「どうしたの」と聞いても、はずかしいのか答えてくれません。

2つ目は、言うことを聞いてくれない事です。学校に来て、初めて見る物や初めて会う友だちがいます。初めての物など見ると、こうふんしてしまいます。そうすると、私たち6年生の声が1年生に届きません。

そんな問題を解決するために、色々な事を考えました。もし、自分が1年生で、きんちょうしていたら、どんな声をかけてもらいたいのか。また、どんな声をかけてもらったら、自分の耳に届くか。考えているうちに、問題点を改善できました。

1つ目の何を考えているか分からない問題は、声をかけるのは、「どうしたの」じゃなく、選択肢を出すのが、1年生にとって答えやすいと考えました。

2つ目の言うことを聞いてくれない問題は、「○○をするために聞いてね。」のような、何かをするためにをつければ、1年生に声が届くと考えました。

実際に行ったところ、1年生と楽しく、そして1年生が楽しそうに接することができました。

私の言いたいことは、夢をかなえるために諦めず努力をすれば、いつか結果に出るということです。

私もこのことを忘れずに、これからも、夢をかなえるために努力を惜しまずに色々な事に挑戦していきます。

14 誰もが安心して暮らせる世の中にするために

横浜市立南小学校 6年 狩野 晴花

「百聞は一見に如かず」という言葉もありますが、誰もが安心して暮らせる世の中にするためには、体験し、深く一見しようとする事が大切だと思います。

去年の夏休み、広島市の平和記念公園、原爆資料館を訪問し、「原爆被害者のことを忘れず、自分が他の人に原爆のことを伝え続けることが大事」だと思いました。しかし、毎日生活する中で、過去に広島で起きた遠いこととして、その思いは薄れてしまっていました。

そこで、今年の6月、父と2人でかながわ平和祈念館を訪問しました。当時、横浜に住んでいて赤紙が届き、戦地に行った人のことや、横浜が空襲で焼け野原になってしまった写真などを見て、本当にこの街なのか目を疑うほどでした。また、これを見て戦争をより身近に感じ、怖くなりました。

帰り道、父が「怖いということは、大切な気持ちを感じることができたね。その気持ちをずっと大切にしていこう。」と話してくれました。「もし、再び思いが薄れてしまうことがあったら、一緒に行こう。」と約束しました。

7月、大伯母が戦争経験者だと知り、直接会って戦時中の話を聞くことができました。空襲で自分の家が燃えてなくなってしまったこと、防空壕に逃げた隣の家族が蒸し焼きになって死んでしまったこと。身近な人からそのような体験を聞き、まるでその時その場所にタイムスリップしたかのように、心の痛みや辛さを感じました。大伯母は、人の命の尊さを知り、人との縁を大事にすれば戦争はなくせるのではないかとっていました。

そして、この夏休み、長崎市の原爆資料館を訪問しました。私は、大伯母と資料館の解説員の方に「今は誰もが安心して暮らせる世の中だと思いますか。」と同じ質問をしました。驚くことに2人とも、「表面上はそうかもしれない。なんとなく平和。」だと言っていました。私はそれを聞いて、確かにそうかもしれないと思いました。他の国が戦争していることをテレビやネット、ニュースでなんとなく知り、遠く離れた場所で起きていることとして受け止め、平和だと感じているのではないかと。

また、私は弟と福祉体験に参加しました。そこで、車椅子に乗った、片腕のない男の子を見て、最初は可哀想だなと思いました。しかし、実際に話をしてみると、自分と共通の楽しみがあることが分かり、障害のある方を自分とは違う世界にいる可哀想な人と、勝手に決めつけていたことに気がつきました。

私は好奇心を持って様々なことに興味を持ち、深く一見すること、知らない世界を知ろうと努力し、学んだことを自分の言葉で誰かに伝えることを心がけています。誰もがこのことを心がけていたら「なんとなく平和」にはならないと思います。私はこれからもこのことを意識していきたいです。「決めつけ」のない、「誰もが安心して暮らせる世の中」になるように。

15 みんなに笑顔を

横浜市立六つ川小学校 6年 奥平 詩音

突然ですがあなたは笑顔が当たり前だと思っていますか。笑顔でない人はおかしいと思っていますか。差別・いじめ・偏見など様々な理由で笑顔になれない人もいます。その事を知ってあなたは何を考え、何を思いますか。そしてどんな事をしようと思いましたか。

私は、障害のある方達と一緒にダンスをしています。あるダンススクールでこの活動をやってい

ると知り、この活動に入れてもらいました。やるぞといった思いでダンスに行ってみたのですが実際に障害のある方達と触れ合ってみることに少し戸惑っていました。なぜ障害のある方と一緒にこの活動をしているのか。意味が分からぬまま発表会のリハーサルの日がやってきました。その日はとても不安でした。リハーサルが始まりました。踊っているうちに障害のある、なしとか関係なくみんなが笑顔だな。自分は何をそんなに戸惑っていたのかなと思っていました。発表会の日にはみんなで笑顔でリズムにのったりたくさんの人の前で楽しく思いっきり踊りました。発表会の幕裏でも私が笑顔で手を叩いていると舞台から戻ってきた男の子も笑顔になってくれていました。そしていろんな人と一緒に何かをすることが楽しくなりました。

障害がある方のことを本で調べてみると世の中には障害があるというだけでこの人たちは普通ではないと区別している人たちがいること、その人のある一部分に目を取られ過ぎてしまい、差別や偏見がおこってしまっていることが分かりました。私もはじめはそうでした。声が大きいから、顔が普通とは違うから、目が見えないから。自分とすこし違うだけで勝手な苦手意識を持っていました。

でも関わってみると違いました。顔が普通と違うだけで私ができないアクロバットをこなし、感心しました。声が少し大きいだけで話している内容も面白く、みんなを笑顔にしてくれました。目が見えないだけで一生懸命表情を作り、とても明るく踊っていました。私はこの体験を通してその人を区別しない、その人の事を外見で判断しない。その人の良い所を見つけるという事をやっていたと思いました。障害があるからできない、ではなく障害がある人だからこその事でもたくさんあります。声を上げたくても上げられない、うごきたくてもできない。そんな人たちの事を私の行動で救っていきたいです。最後に問いかけてみてください。あなたのとなりの人は笑顔ですか。あなたの大切な人は笑顔ですか。この世の中のみんなが当たり前笑顔になり、その人自身の幸せを生きていける社会を作るために今、私がやれること。

16 笑顔

横浜市立六つ川小学校 6年 佐藤 帆夏

皆さんは、自分自身の笑顔は好きですか？私は、私自身の笑顔が苦手でした。でも、1年生から6年生の中でいっきに好きになりました。その理由は、3つのことがきっかけです。

1つ目は、1年生から6年生の中で色々な先生に「笑顔がすてき。」などと声をかけてもらったことがきっかけです。私の笑顔が私自身苦手だったけど、この言葉をきっかけに一步、好きに近づきました。

2つ目は、地域の人や様々な人に「笑顔で元気になった。」と声をかけてもらったことです。この2つのようなことでいっきに笑顔が好きになりました。

3つ目は、私は1年生からバレーボールをならっていて、そこで日々笑顔を使うようになり、そこでも私に対してのメッセージをくれたことも1つの理由です。

そこで、私が気になったことは、私以外の人たちは自分自身の笑顔は好きなのかを聞くために、私のクラスの人たちにアンケートをとりました。すると、99%の人が自分自身の笑顔が好きと回答。その多くの理由は、笑顔でいると周りも明るくなるという意見や、おたがいに笑顔になっていることで、元気になったり、幸せになるという意見がありました。一方、たった1%の人が自分自身の笑顔が苦手と回答。その理由は、うまく笑えないという意見でした。

なのでアンケートを取り分かったことは、笑顔でいることで周りの人が元気になったり、周りの人まで幸せに、そして明るくなるということ、でも笑顔が苦手という人もいること、様々な意見があると思いました。

世界では、まだまだ戦争が続いています。

戦争で笑顔になりたくてもなれない人、辛い思いをしている人などと世の中には、色々な人々がいます。

そこで私たちができることは、いつでも笑顔で、世界の笑顔を80%でも、99%でもなく100%にすることだと思います。辛い思いをしている人の分も笑顔になっていることで辛い思いをしている人も、いつか笑顔になり平和な世の中をつくり、めざすは100%以上の笑顔を生み出すことです。

なので私が今できることは、私の笑顔をチャームポイントにし、生活することです。皆さんも自分に今すぐできることは何かを考え、生活してみるといいと思います。

17 『すべての人が自分らしく』

横浜市立六つ川小学校 6年 佐藤 莉央那

私は、障害のある方とダンスをしています。

私は最初このダンスが始まると決まったとき、少し戸惑っていました。何日かたってレッスンが始まりました。障害のある方たちと一緒にやるのです。けれど始まってもいつもと同じように進んでいました。私はあれ、いつもと全然変わらないなと思いました。私は今まで人とのちがいを見つけて避けてしまっていたのかもしれないと思いました。休憩の時、1人の女の子が声をかけてくれました。障害のあるようには見えなく、元気でニコニコしていました。他の人たちも笑顔でおどっていました。そして私は、楽しくなりました。この時、「この世界は全てが平等なわけではない」と聞いたことを思い出しました。それをなんでだろうとなぞにしか思えませんでした。気になって調べてみると、この世界は、「平等」というものに悩まされている人たちがたくさんいることに気がつきました。私は、障害がある人に偏見を持っていたのかもしれない。そんな想いをもちながら、ある日、色鉛筆について放送されているテレビを見ました。昔は「はだ色」だった色の名前が「うすだいだい色」になったことを知りました。それは世界中にいる人たちのはだの色が全て同じ色ではないということだったのです。この時私はダンスで出会った女の子のことを思い出しました。私は障害のある方とダンスをやる前は、障害があるというだけで区別していたのだと思います。でもそれはおかしいことだとダンスをして気づきました。

知らないことを知ることが私たちを作っていくんじゃないかと思っています。一人ひとりのよさや人権があり、自分らしさがあります。私は障害のある方と活動やイベントを自ら開き、たくさんの人の笑顔があふれるようなまち作りをしていきたいです。まずは、ダンスの仲間を学校に呼んで私のクラスの人たちと一緒におり、心の交流を目指します。

世界中のみんなが一人ひとり違う自分の幸せに生きることをあたり前の社会にしていくために、今、私にできること、今、あなたにできること。

18 「当たり前」って何だろう

横浜市立六つ川小学校 6年 浦田 栞帆

私は最近思ったことがあります。私達の学年目標を決める時に私の心に引っかかった言葉がありました。それは当たり前という言葉です。その当たりの言葉の中には、友達と仲良くする。ルールを守る。差別をしない。などがありました。その時私は「学校には友達と仲良くするというのが当たり前じゃない子もいるのではないか、もしかしたら人に相談していないだけで本当は友達とあまり関わりたくない子もいるのではないか。」と考えました。私が学校で委員長に立っこうほした時のスピーチにそのような色々な事情を持っている子の事も個性として受け入れるという事を言いましたが、まだその目標は達成しきれていません。あと学校で委員会の活動を出来るのは10回もありません。それまでに今行っているあいさつ運動に加えて、一步前へ進めるようになりたいです。

そして、ついこの間スピーチコンテストがありました。私は学校代表の子の応援で会場に行ったのですが、そこでとても良い事を学んだけれど少し悲しい気持ちになりました。それは、日本はこれだけしかSDGsの目標達成へと近づいていないんだなと実感させられたからです。他の国と比べたらひんこん問題などは解決へ近づいているのかもしれませんが、私はジェンダー平等などはまだまだ進んでいないなと思ったからです。私が学校に通っているとあまり考えにくい問題でした。でも、家族と出かけていると男性がメイクをしていたり、女性のような格こうをしている人を見かけたりします。私はそのような人がいる事をとてもうれしく思います。そういう人がいる事によって問題が解決される一步につながると思うからです。私は今まで女性がしている事をなぜ男性がしてはいけないのか分かりませんでした。私は正直に言うと男性は男性らしく女性は女性らしくというへんけんのような言葉がきらいです。なので日本だけでなく世界が自分は自分らしくあなたはあなたらしく生きていけるような世界ができればいいなと思いました。このような世界も人によって当たり前ではありません。自分の心も人の心を大切にできるように今ある自分が思っている当たり前がもし無くなったらとみなさんも考えてほしいです。私はこのような経験をできていることも当たり前ではないと感じながら一人一人を大事にして自分の生活を見直していきたいです。

19 あたり前ではない幸せ

横浜市立六つ川小学校 6年 菊池 優空

皆さんは、日頃の小さな幸せに気づけていますか。例えば、栄養バランスの取れた食事、大切な人との時間。

私は、生まれてすぐに緊急搬送され子供医療センターに運ばれました。家族はとても心配し、緊張した空気が流れていたそうです。そしてすぐに私の医療チームができ、私のために最善の方法を考えて下さいました。その結果、手術をするという事になり、何時間にもおよぶ手術が行われました。私は先生のおかげで命が助かりました。その後、入院していたのですが、その間に入院している子供たちに、治療だけでなく、心のケアまでもしてくれていたそうです。例えば、絵本を読んであげたり、人形劇をしてくれたりして、子供たちが安心できる工夫をしていたそうです。そして、子供医療センターの職員さんには、「入院中であっても子供たちには笑顔であってほしい」そんな願いがあるそうです。また、「子供たちの泣く姿があたり前に感じてしまう事がある。でもそれは子供にとっても家族にとっても辛くて、あたり前ではない事です。」とホームページに書かれていました。私は、先生の願いを知り、改めて「あたり前」ということがどれほど怖いことかを知りました。他には、ファシリテードッグという犬が病院内にいました。それは、子供たちが採血や手術室に行く時、不安にならないよう、付きそってくれます。その存在は、子供たちにとって入院生活を少しでも明るく、病院への恐怖心やトラウマを減らす役割があると思います。病と戦っている子供たちにとって、とても大切な存在のファシリテードッグは、日本にはまだ2頭しかいません。私もファシリテードッグや、先生方の存在に体も、命も、心も助けられ、健康な状態でいられています。そのおかげで、私が大好きなダンスや歌など、様々な事にチャレンジできているという、あたり前のようにあたり前ではないということ、たくさんの人の協力で生きていけているという事のありがたさを感じ、今度は私が、一人一人の希望や夢に向かう背中を押してあげられる、ファシリテードッグのような存在のアーティストになりたいです。

みなさんにとって、ファシリテードッグのような心のより所はありますか。また、だれかの心のより所になれていますか。

20 飢餓をなくすためにできること

横浜市立藤の木小学校 6年 周治 愛菜

皆さんは、世界でその日食べるものがないまたは、明日以降食べ物を食べられるか分からない状態の人がどのくらいいるか知っていますか。答えは、8億人です。世界人口は約80億人なので約10人に1人が苦しんでいることとなります。長い時間ご飯が十分に食べられず栄養不足で飢えに

苦しんでいる状態のことを飢餓と言います。

私は、飢餓で苦しんでいる人を1人でも減らしたいと思っています。そのために私たちにできることは、2つあります。1つ目は、ご飯が食べられない人のために募金活動を行うことです。これは、15円で1人1食分のご飯が食べられます。つまり、飢えに苦しんでいる人みんなが3食ご飯を食べるには、360億円必要です。360億は、簡単に払えないくらいのお金ですが、元気に過ごしている人が募金をしたら払えると思います。2つ目は、食べ残しをゼロにすることです。これは、1つ目の募金活動より小さいことなので多くの人に取り組めると思います。まずは、食べ切れるくらいの量を考えて買ったり、作ったりすることです。明日の朝などのために作り置きするのは良いですが、せっかく作ったのに食べないのは食材やガス代がもったいないです。次は、賞味期限や消費期限についてをよく考えて買ったり、使ったりすることです。スーパーなどで家に帰ってすぐ使うのにわざわざ棚の奥から賞味期限の長い食材を取ったりすることもありますよね。すぐ使う時は、なるべく賞味期限が近い物を取るように心がけた方が食べ残しをゼロに出来ると思います。最後に嫌いなものでも食べられるように工夫することです。私は、ゴーヤが苦手でご飯にゴーヤが出ると少しだけ食べてあとは残していました。ですが、ゴーヤを育てている人のことを考えると一生懸命育てたのに残すのは失礼だと思いました。そこでゴーヤが出たら他の食材と一緒に食べて食べ残しを減らそうと思いました。

このように飢餓で苦しんでいる人を減らす簡単な取り組みはたくさんあります。1人でも募金活動や食べ残しを減らすだけで苦しんでいる人は減らせるかもしれません。

皆さんも募金活動をしたり、食べ残しをなくしたりして飢餓の人を少しでも減らす取り組みをしませんか。

21 ヤモリの魅力

横浜市立藤の木小学校 6年 遠藤 楓

しなやかな背骨の曲線。一瞬で獲物にかぶりつき、がっちりつかまえて獲物を逃がさない細かな歯。暗闇できらりと光る金色の瞳。そう、ヤモリだ。ヤモリといえば、吸盤をもっているというイメージが強いが、ヤモリがもっているのは、吸盤ではなく趾下薄板だ。趾下薄板の表面にはマイクロメートルサイズの毛がびっしりと生えており、その毛先が壁の表面の凸凹と接することでファンデルワールス力（分子間力の1種で、分子と分子の間に働く引力）が生じ、その力を使って壁にはりつくことができるのである。ヤモリは分子レベルで壁や窓ガラスにくっつくことができる驚きの能力の持ち主なのだ。ほかに、環境に応じて体色の濃淡を変化できたり、敵におそわれたときに自分の尾を切って逃げたり、まさに、小さな忍者である。ヤモリのおもしろいところはまだまだたくさんある。その一部を紹介しよう。ヤモリはよく、縁起のよい生き物と言われているが、それはなぜなのか。インターネットで調べてみると、ヤモリが家の中の蚊やハエ、ゴキブリなどの害虫

を食べてくれるため、ヤモリが家にいることは害虫の少ない清潔な家庭環境を保つ助けとなるとのこと。これがヤモリが縁起のよいとされている理由の1つだ。理由の2つ目は、いくつかの文化ではヤモリの出現を家族の健康や繁栄の象徴と考えるから。特にアジアの一部地域では、ヤモリが壁に張りつく様子は家族が団結し、困難に立ち向かう力があることを意味するとされている。3つ目の理由は、古くからヤモリは邪悪な精霊や運気を払う力があると信じられており、家にヤモリが現れると家を守る守護霊が来たと考えられていたからだ。このため、ヤモリはお守りとしての役割も担っていると言える。ヤモリは自然の害虫駆除剤としてだけでなく幸運や守護の象徴として、私たちの生活に密接に関わっている。もし家のどこかでヤモリを見かけたら、その小さな幸せに感謝して、自然との共生を楽しめるかもしれない。ここで紹介した以外にもヤモリのおもしろいところはまだまだある。どこかでヤモリを見かけるたびに、色々なことが分かるだろう。ヤモリを見つけたら、時にはじっくりと観察し、ヤモリのさまざまな魅力を見つけてほしい。

中学生・高校生・一般の部

テーマ1 大人になった自分への手紙

1 たくさんのことを乗り越えてきた自分へ。

横浜市立共進中学校 1年 斉藤 結咲

私は、たくさんのことを乗り越えてきた自分に、伝えたいこと、聞きたいことがたくさんあります。もちろん、元気に過ごせていることを前提としてです。まず、今の暮らし、生活を楽しんでいますか。小さいころの自分は、たくさんの習い事をしていて、大変な思いもあれば、楽しい思いもたくさん感じてきたでしょう。その思いを知っているからこそ大人になった開放感や、自由を楽しんでほしいです。その、大変な思いをたくさんしたことが多い習い事といえば、バスケだと思います。中学生で、悩んだ結果、クラブチームに入り、自分よりもとても上手な人が何人もいました。その人達に、完敗して時には、挫折しそうになったことも、少なくないと思います。しかし、そんな時に、コーチにほめてもらったり、自分よりバスケが上手な人達から、シュートを決めたり、ディフェンスで止めるたびに、バスケの楽しさを思い出しています。なので、私の今の将来の夢は、バスケに関わる仕事につく、またはプロのバスケ選手になることです。今の私は、まだバスケも強くなって、つらいことがたくさんあるけれど、きっとそれを乗り越えた未来の私が楽しみです。こんな風になってほしいというのは、あまりありません。なぜなら、私は自分から、なりたい自分になりに行くからです。なので、大人になった私は、そっと静かに見守っていて下さい。

最後に一つだけ、伝えておきたいことがあります。無理だけは絶対にしないで下さいね。私は、小さいころからずっと、相手に合わせてしまったり、自分の本当の気持ちを伝えることが苦手でした。そして、今の私も変わらず、何かと溜めこんでしまっています。未来の私には、元気だと思いますが、気をつけて下さい。そして、いつも相手のことだけを大切にするのではなく、少しは自分を大切に思っていて下さい。

2 15年後の私へ

横浜市立永田中学校 1年 舘野 明莉

15年後の私は何をしていますか？15年後の私は27歳。まったく想像がつかないけれど、元気に楽しく過ごしていたら嬉しいです。今12歳の私は、部活や塾に追われ夏休み残り2日という事実に焦りを感じています。そんな私は27歳の自分に聞きたいことが3つあります。

1つ目は、将来についてです。

27歳の私は「美容師」の夢を叶えられていますか？もし叶えられているならば自分の仕事に誇りを持って仕事を頑張りながらも楽しんでください。きっと大変だと思うけど、自分が決めたことだから最後までやりきってください！

2つ目は、好きな人です。

27歳の私には好きな人がいますか？もしいるならば後悔しないように楽しんでください。きっと成功するはず！そしてその人と結婚して、幸せな家庭を築いていってください！今の私はアタックせず失敗して後悔したのでそうならないように積極的に行動してください。

3つ目は、環境問題についてです。

15年後の日本の気温はどうなっていますか？今でさえ夏は毎日のように35度を超し、熱中症警戒アラートが出されるのが当たり前のようになっています。今世界では地球温暖化を阻止するために「SDGs～持続可能な開発目標～」が進められています。15年後には17個中何個達成出来ていますか？全部とは言わないけれどたくさん達成出来ていれば嬉しいです。

私と言えたことじゃないけれど、人生まだまだ色んなことに挑戦してください！ママとパパにもちゃんと親孝行してね。まだたくさん聞きたいこと、話したいことはあるけれど最後に1つだけ。

人生一度きり楽しんで悔いのない人生にしてください！！15年後の私が幸せでいますように！！

3 大人になったわたしへ

横浜市立平楽中学校 2年 田中 来実

大人になったわたしへ。お元気ですか。幸せで充実した日々を過ごせていますか。

今のわたしには中学校の先生になるという夢があります。大人になり、わたしは、この夢をもち続け、憧れの先生の背中を追っているのでしょうか。もし先生になれていたらとても嬉しいです。でも、先生になっていてもいなくても、人と関わるときの胸の弾みは決して忘れないでください。

ところで、大好きな絵は描きつづけていますか。きっと今のわたしより、たくさんの経験を積んだことで描ける絵があると思います。大人になってその絵を自分で確かめに行くのを心から楽しみ

にしています。

わたしは今、きっとあなたも鮮明に記憶に残っていると思いますが、吹奏楽に心を奪われています。日々を豊かにいどる音楽、わたしはずっと手離さずにいますか。2度目のコンクールももう目前、あなたは結果を知っているかもしれませんが、何年後かの未来からエールをせいいっぱいおくってください。

最後にひとつ、質問をさせてください。今までも今もこれからも、わたしはたくさんの壁に直面すると思います。そのたびに悩みを抱えて涙することもあるのではないのでしょうか。それでも、あなたは「よい経験をした」と笑顔でそれらを語れるようになっていませんか。

大人になったわたしに、答えを教えてもらいに行くのもわたしです。それまで、たくさんすばらしい経験も苦しい経験もすると思います。ですが、胸を張ってその日のわたしに会いに行けるように、前を向いて今を歩いていきます。

未来で楽しみにわたしのことを待っていてください。手紙を読んでくれてありがとう。中学生のわたしより。

4 22歳の私へ

横浜市立平楽中学校 2年 前田 笑菜

私がこの作文を「22歳の私へ」という題名にしたのは、大学を卒業するのが22歳であり、このタイミングでもう一度気を引き締め素晴らしい人生を送ってほしいと思ったからです。大学を卒業するということは学生としての生活が終わり、いよいよ社会人になるということです。人生の第2段階の始まりのような気がします。そもそも私は高校、大学に受かり通い続け、しっかり卒業できているでしょうか。そして就職先は決まっているでしょうか。仲良い友達とはいまだに連絡を取り合って一緒に遊びに行ったりしているでしょうか。聞きたいことはたくさんあります。でもそれはこれからの楽しみに取っておこうと思います。今の私にはまだ夢がありません。自分が将来どんな仕事に就いてどんな風に過ごしているのか、想像もつきません。ただ、大人になっても忘れないでいたいと思うことが2つあります。1つ目は、周りの人と笑顔で楽しく過ごすことです。私は人の幸せそうな笑顔を見るのが大好きです。人が笑っているのを見ると私まで穏やかな気持ちになれます。笑顔になれるような出来事がたくさん起こる楽しい人生を過ごしたいです。そして2つ目は、しっかり努力をすることです。私は努力している人に幸せは訪れると思います。生きていれば、やりたくないこと、好きじゃないことにたくさん向き合うことになると思います。その時に逃げずにきちんと向き合えるかがその後の人生を左右すると思います。今の私はどちらかといえば逃げてしまうことが多いです。逃げることは簡単で楽だからです。でも、逃げることを続けていても何もいいことはない、と心のどこかで分かっています。自分で幸せを掴み取るには、嫌なことともしっかりと向き合い、逃げずに努力し、誇れる自分であることが大事だと思います。そして、ただ頭の中で理想を並べているだけではなく、行動に起こすことを大事にしたいです。小さな一歩でも、それ

を積み重ね自分の自信にしていきたいです。自分に自信が持てることは笑顔で過ごすことにもつながっていくと思います。自分の行動がその後の自分にも周りにも良い影響を与えられる、プラスの連鎖をつくれる、そんな人になりたいです。

5 過去の私から未来の私へ

横浜市立共進中学校 2年 赤羽 綾華

大人になった私へ。

小さい頃はとても泣き虫で1人ではなにも出来なかった私は本当に社会に出てやっていけるのか心配な気持ちでいっぱいです。ママのようにしっかりと仕事をこなしていますか。自慢の母親は私を女手一つで育ててくれたとても尊敬できる人です。母親は育児も仕事も両立して行っていて普段疲れているのにも関わらず私にあまり涙を見せず一生懸命頑張っていました。ですが、そんなママにも不幸が訪れました。私が小学1年生の夏にママは、

「膵臓がん」

と診断されました。後に聞いた話だとママは余命宣告されていたそうです。それもたったの3か月。それでも私の母親は治ることを信じ入院し終わった後も治療を受けながら仕事をしました。母親は今ではもう亡くなってしまいましたが、仕事も育児も両立していた母親を尊敬し将来はこんな人になりたいなと思います。中学生の今は将来立派な人になるために学校生活や部活動を通し様々な人と交流し周りを見て行動したり、相手を理解し尊重することを常日頃から意識するようにしています。大人の私は自己中心的にならず利他的に行動していますか。もし周りを見ず自分勝手に行動した場合にはもう一度改めて社会で生活しに行ってほしいなと思います。自分の普段の行動を見つめ直すことで相手から信頼されてとても頼られる存在になっていくのではないのでしょうか。中学生の私には今後どのような生活や暮らしになるかは分かりませんが、憧れの母親のように周りからの信頼を得るように周りを見て行動して行ってほしいです。辛いことや悲しいことがあった際はこの手紙を読み直してほしいです。今まで頑張っている努力は必ず実ります。空から見守っている母親にほめてもらえるように。そして、これからの人生がとても充実するようにしてください。これからの未来楽しみにし私は今日も学校に行ってきます。

「過去の私から大人になった私へ」

6 10年後、24歳になる私へ

横浜市立共進中学校 2年 藤咲 夏都音

大人になった私は今何をしていますか？元気に過ごしていますか？どんな仕事に就きましたか？今の私には大人になった自分がどんな仕事に就いているのか、まったく想像もできません。私は優柔不断だから、今の仕事に就くまでにもたくさん悩んだのではないかなと思います。今の仕事に責任を持ち、一生懸命頑張ってくださいね。

家族は元気に過ごしていますか？今の私は家族に迷惑をかけてばかりなので、大人になった私は全力で親孝行をしてください！今の私は反抗期の真っ最中で、両親にはそっけない態度ばかりだから、大人になった私は家族と過ごす時間を大切にしてください。

私は立派な大人に成長できていますか？今はまだ幼稚で浅はかですが、大人になった私は立派な人間になっていると期待しています。身長は伸びましたか？それとも160センチメートルのままですか？大人になる頃にはもう少し身長が伸びていたらいいな、と思っています。

ダンスは続けていますか？私は3歳から習い始めたダンスを今も続けています。プロを目指すのか、それとも別の職業に就くのか、将来についてはまだ考えられていないけれど、ダンスは好きなのでこれからも続けていくつもりです。私は飽き性なので、ずっとダンスを続けられていることを誇りに思っています。もし大人になってもダンスを続けていたら、今後も努力を惜しまず、励んでください。

職場の人や友人とは良い関係を築けていますか？今の私は人間関係に悩むこともあれば、友人と喧嘩をしたりすることもあるけれど、なんだかんだで素敵な友人やクラスメイトに恵まれています。大人になった私には、周囲の人々と良い関係を築くためにも、協調性や思いやりを身につけてほしいです。「持つべきものは友」という言葉があるくらいなので、友人と過ごす時間も大切にしてくださいね。

私は人一倍行動に時間がかかるし、計画性も無いので、社会に出てからは苦労することや悩むこともたくさんあると思います。それでも、何事もすぐに諦めず、粘り強く取り組めるようになってほしいです。

そして、「今」は二度と戻って来ないので、悔いの無いように人生を楽しんでください！

7 人に頼ること、感謝をすること

横浜市立平楽中学校 3年 酒井 月葉

大人の私へ。お元気ですか。大人になるまで短いようであつという間だったと思います。高校生活どうでしたか。受験勉強は大変だったと思うけれど、それなりに楽しい良い思い出がたくさんあつ

た高校生活だったなら、良かったです。

大人になった私に、これだけは大切にしてほしいということを書きます。

1つ目は1人で抱えこまないでほしいということ。中学2年は思い悩んだことがあり、全てが嫌になっていた時がありましたね。けれど、身近にいた友だち、先生、お母さんの沢山の支えがあったから立ち直ることができたのだと思います。周りからもよく言われていたけれど、私は1人で悩んで爆発しやすいところがあると思います。自分でいうのも少し違うかもしれないけれどこの先困ったことがあったら周りの人に相談してください。助けを求めてください。大人になった私もきっと、「迷惑をかけてしまう」と思うのではないのでしょうか。でも、1人で悩んで大爆発するほうが周りの人たちにとってよっぽど迷惑です。だから、1人で考えすぎず周りを頼るようにしてください。

2つ目は、どんな時でも感謝を忘れないでということ。昔から私は、大好きだったダンスを習うために東京に通うにあたって、毎月の月謝から交通費まで沢山お金をかけてきてもらいました。私がいつもどれだけ反抗しても、お母さんはいつも私のことを応援してくれました。そのおかげで沢山の経験ができて大人になった私へつながっています。私が沢山のことを学べられるようにお母さん、お父さんはいつも頑張っていました。大人になった私なら働いて貯めたお金の重みがわかると思います。両親が私のためにしてくれたように大人になった私の周りで私を支えてくれている人に常に感謝を持ってほしいです。

最後に15歳の私から大人になった私へ。どんな時も笑顔を忘れず、周りに流されず、自分の意思を大切にしてください。

あなたの人生が楽しく明るいものになりますように。15歳のわたしより。

8 変えるべきこと

横浜市立平楽中学校 3年 金須 志織

「自分の気持ちをはっきり言えてますか」

大人になった自分への言葉はこれが一番最初に思いつきました。でもきっと、大人になってもこれは出来るようになってないと思います。

私は自分の気持ちをはっきり言えません。年上の方にはもちろん、友達や家族にもあまり言えません。どんなふうに言えないのかと言うと、例えば、友達に嫌なことをされた時、私は笑顔でなにも言えずそのまま相手に気持ちを伝えることができないまま時が過ぎてしまうことが多々あります。他にも、遊びにさそわれたけど自分は家でゲームしたいなど思った時は、わざわざ勉強があるからとみんなから仕方ないと思われるよううそをついたりしてしまいます。なぜこんなことをしちゃうのかと言うと関係をこわしたくないからです。

私は昔、自分の本音を言って仲良かった友達との関係がこわれてしまったことがあります。だからなるべくけんかをしてしまわぬように、自分の気持ちを言わないようにして今ここにいたりします。ずっと仲良かった友達とはなさなくなるなんて考えてもいなかったし、今でもああすればよかった

のかなと、思ったりしてしまいます。でも、過去には戻れないし、私がこれから変わっていかなくてはなりません。しかし、私は最初に大人になっても出来ないとかきました。それは、自分の気持ちをおさえまわりに合わせるのが自分のやさしさだと思っているからです。こうすることで私はみんなからやさしいと評価されてきました。「〇〇もそうだよね」と言われたら「うん」と返したり、友達のたのみ事は大抵受け入れたりすることで「〇〇っておこったりしないよね」と言われるようになり、それが少し嬉しかったりします。

そうやって少しずつ積み重ねてきたこの性格で私が本当の気持ちを言ってしまったらまた、関係がこわれてしまうそう思うてしまいます。だからと言ってこのままで一生いようとは思っていません。たとえ私が自分の気持ちをはっきり言えなかったとしても、それに気づいてくれる人がいるかもしれない。こんな性格の私でも自分から本音を言いたくなるような人がいるかもしれない。そう思うてまずは関わる人から変えていこうと思いました。

きっと大人の私は本当の友達と自分をおさえこまなくてもけんかすることなく笑顔でいると思います。そう、していこうと思います。

9 たった一日じゃない。

横浜市立共進中学校 3年 鈴木 凜

あなたは今、自分のやりたいと思うことができますか。夢に向かって頑張る続けることはできていますか。大人になった自分に今一番伝えたいことは「一日を大切に生きてほしい。」この一言です。

私がこのことを強く感じるようになったのはちょうど2年半前くらいのある出来事がきっかけです。今から約2年半前、私のおじいちゃんが亡くなりました。これを知らされたのは習い事に行っていた日の帰りです。姉と2人で帰っていたとき母から電話がありました。「早く帰ってきて。」とこの一言だけを言われ私と姉は急いで家へ帰りました。家に着くとおじいちゃんが亡くなったと知らされました。おじいちゃんはずごく元気で病気を持っていた訳でもないのに突然こんなことが起き信じることはできませんでした。想像もしていないことが、本当に起きてしまうんだと実感させられました。このとき、私はおじいちゃんに何かしてあげられたのではないかとすごく後悔したのを今でも覚えています。だからこそ私は、毎日を大切に後悔のないように生きていきたいです。私の今の夢は誰かに勇気を与えられるようなダンサーになることです。たった1パーセントの可能性だとしても、今の自分にできることを全力でやっていきたいです。少しでも夢に向かって近づけるように今も大人になってからも頑張る続けることのできるような人でありたいです。

人はいつ終わりがくるかわからない。今日かもしれない、明日かもしれない。たった1日かもしれないけれど、その1日を意味のある日にしてほしいと思います。そして、回りにいてくれる人もいつ会えなくなるか分からない。いつまでも「ありがとう。」と感謝を忘れることのない人であっ

てほしいです。会えなくなってからじゃ、伝えることができないからこそ、自分のためにも人のためにも心で思うのではなく、声に出して伝えることを大事にしながら生きていてほしいです。

10 幸せの連鎖

横浜市立南が丘中学校 3年 安積 柊

大人になった私は、どんな姿だろうか。どこで働き、何をしているだろうか。もちろん、今の私に未来のことは分からない。だが、14歳の私から、大人になった私へ伝えたいことがある。

私が小学2年生だった頃の出来事を、大人になった私はまだ覚えているだろうか。私の学校では、生活の授業の一貫として何か1つ植物を育てることになっていた。私は大好きなオクラを選び、毎日欠かさず水やりをし、時には肥料をやり、心を込めて育てた。だが、私の植木鉢からはいっとうに芽が出なかった。周りの友達の手からは既に発芽して、葉ができて喜んでいる子さえもいたというのに、自分の鉢は育たない。とうとう、思いは通じず、私のオクラは実ることなく枯れてしまった。結局、オクラではなく他の植物を育てることになったが、私の心は晴れなかった。放課後、涙ぐみながら1人で他の苗へ植え替えをしていた。すると、クラスの友人が、

「大丈夫。きっと次はおいしく育つよ。」

と言って、私の背中をさすってくれた。悔しさや情けなさでふさいでいた私の気持ちに寄り添ってくれたことが、本当に嬉しかった。それと同時に、私も相手の立場になって考え、行動できる、そんな友達のようになりたいと強く思った。

幼い頃の記憶は少しずつ薄れてしまうものだろう。そして、年齢を重ねていくにつれて、物事の見方、捉え方が変わったり、周りの目を気にしたりと、自分を見失ってしまうこともあるかもしれない。だから大人になった私に、かつてあの時強く願った、誰かを思いやり、相手の立場になって考え、そして勇気をもって言葉にしたり行動したりできる、大人であることを望む。たとえ上手く言葉で表わすことができないとしても、表情や態度で相手に優しさを伝えられるような人になりたい。また、誰かに優しくしてもらった出来事や言葉は、心の中に留めておき、今度はそのもらった優しさを次の人に渡す。そうやって、波紋のように幸せの連鎖が広がることになればと思う。

泣いたり笑ったり、時に怒ったり、悲しんだり。人生は上手くいくことばかりではないだろうが、あの時の友達のように、誰かを笑顔にしたり、励ましたりできる大人でありたい。また、自分にとって大切な人が喜んでいたら自分も一緒に喜び、悲しんでいたらその人にそっと手を差し伸べられるような人でありたい。そして、私が誰かを大切に思うように、私も誰かにとって大切な存在でありますように。

中学生・高校生・一般の部

テーマ2 私の好きな南区

(人、場所など)

1 伝えたい南区の素敵につながり

横浜市立永田中学校 2年 勝部 はんな

「おはようございます」

私の家の近くでは、毎朝、元気な挨拶が飛び交う。仕事へ向かう大人や登校する小学生、幼稚園や保育園へ通う小さな子供、私たち中学生の声もある。そしてその中心にいるのは、学援隊と呼ばれる人たちだ。

学援隊とは、私が通っていた小学校で様々な活動を行う人たちのことだ。例えば、登下校時の見守りやスクールゾーンの安全チェック、田植えから稲の収穫までの指導などをしてきている。また、町内会を通して地域でのお祭りの準備や、運営などの活動も行っている。

私が小学生の頃、学援隊の人たちはとても身近な存在だった。登校や下校の時はいつも挨拶を交わしていた。車が近くを通る時は

「車が来るよ。危ないよ。」

と教えてくれる。遊びに行く時も道で会えば、声を掛けてくれた。

5年生で稲について勉強した時は、土のつくり方から田植え、水やり、収穫といった様々な場面で指導してもらった。夏休みには子供が交代で稲に水やりをするのだが、学援隊の人たちも毎日のように稲の状態を見に来て、雑草を抜いたり、水やりのチェックをしていてくれたことを私は知っている。地域のお祭りでは、御神輿の手入れや山車のペンキ塗りなどもしている。

中学生になって、学援隊の人たちとの関係が少しだけ遠くなったように思う。身近な存在で、近くにいる時は当たり前すぎて分からなかったありがたさを、今少しずつ感じている。

登下校で挨拶を交わす時は、いつも同時に交通安全を確認しながら見守ってくれている。稲の指導では、日本人の主食である米を作る大変さや、収穫できる喜びを教えてくれた。お祭りでは、地域の伝統的な行事を楽しみながら伝えてくれる。

私の住む町、南区には子供たちの安全を見守り、地域のつながりを大切にしている素敵な大人がたくさんいる。私たち子供が安心して成長していく上で、その人たちの存在がどれほど大きなものなのだろうかと思う。そして私も、地域のためにできることや、自分よりも下の世代のためにできることを考えてみようと思った。小さなことかもしれないが、今までもしてきたように、近所の方や登下校で会う人たちにしっかり挨拶をする、小さな子供が困っていないか目を配る、地域の行事に積極的に参加するなど、自分にできることから行動してみようと思う。

私が素晴らしいと思う南区の大人たちがつくってくれているつながりや安心感を、次世代へつなげていけるように成長していきたい。

中学生・高校生・一般の部

テーマ3 ルールとマナーについて

(スマホ、ゲーム、お酒、たばこ、薬物など)

1 ラインの言葉は打ち言葉？

横浜市立共進中学校 1年 鷹尾 和香

私たちは、いろいろな事を伝えるために話し言葉や書き言葉を使っている。中学生になって、ラインで友達に伝えることが多くなって、話し言葉と書き言葉の違いを考えざるをえない出来事があった。

毎日の生活の中では、あたりまえのように話し言葉を使っている。ふつうの会話で、フェイスタイムで、電話で。手軽で簡単な言葉である。一方、書き言葉は、年賀状、暑中見舞い、カードなどでふだんあまり使わないが、ラインでのやりとりは毎日のようにしている。

小学校の時、交換日記をしたことがある。始めはワクワクしていたが、いつの間にか止まってしまった。「何を書こうかな。」とか、「漢字合っているかな。」とか考えて時間がかかり、めんどろになってきたからである。カードや手紙をもらったときは、うれしくて何回も読み、その後机の中に大切にしまっている。今でもそれを取り出して見ることがある。手紙をくれた人や当時のことを思い出してうれしくなる。手紙やはがきは残しておきたい書き言葉なのに、ラインの書き言葉はなぜ心がしんどく感じてしまうときがあるのだろうか。

おばあちゃんと妹と私の3人で、言葉について話し合った。話し言葉は、相手にとっては聞き言葉であり、書き言葉は、相手にとっては読み言葉である。

話し言葉、簡単で楽、残らない、相手がそばにいる、すぐ伝わる。一方、書き言葉はめんどろ、残る、相手がそばにいない、伝わるのに時間がかかる。話し合っているうちに妹が、

「ラインは書いてないから、打ち言葉じゃないの？」

と言った。おばあちゃんが、

「なるほどね。打ち言葉。でも、相手には読み言葉。新しい言葉の発見だね。」

と言った。

ラインの言葉は打ち言葉だから、すぐ打てて簡単、漢字もすぐ変換してくれる。でも、相手には、読み言葉だから、残る書き言葉である。ラインの言葉は複雑である。

おばあちゃんから

「話す時は、表情を見て相手がどう思っているのかを気にしながら話している。けれどもラインでは相手の顔が見えないから、どう感じているかわからないし、誤解があっても、すぐ訂正できない。だからしん重にしないとダメなんだよ。」

と言われた。

今の時代、学校や部活の連絡には、ラインは欠かせない。写真やおもしろい動画をラインで送ったりするのも楽しい。ラインの言葉は、手軽な打ち言葉だから、パパッと打ってしまいがちである。だから、よけいに受け取った人の気持ちを考えながら使っていかなければと思った。「送信ボタン」を押す前に、もう一度確認を。

2 悩みを抱え込まない大切さ

横浜市立永田中学校 1年 津原 康希

学校で「薬物」に関する話を聞いたり、パンフレットをもらったりしたことがあります。「薬物乱用防止」とよく耳にしますが、具体的にどのようなことか調べてみました。「薬物乱用」とは、決められたルールを守らないで薬物を使用すること。これには、違法薬物を法律というルールを守らないで使用するだけでなく、「日常で使う市販薬や処方薬、医薬品を決められた治療目的以外に不適切に使用することや、意図的に用法・用量を守らないで使用すること」も含まれるそうです。

僕たち十代では、特に大麻の乱用が増えてきていて、中には中学生でも検挙されるケースもあるそうで驚きました。以前、公園で人から「危険ドラッグ」にあたる「大麻グミ」をそれと知らずにもらって食べて、体調不良になり病院に運ばれた子どもがいるというニュースをテレビで見ました。自分の身近なところで、意図せず巻き込まれる可能性があることを知り、正直怖い気持ちになりました。

また、十代や二十代の主に使用する薬物として最も多いものは「市販薬」だそうです。市販薬などの薬物を過量摂取する「オーバードーズ」は、最悪の場合、死に至るとも危険な行為です。「友達に誘われて」とか「インターネットで知って」など、きっかけのほとんどはSNSを通じて始まります。決して他人事ではなく、自分にも、いつそのようなきっかけがあるのかわかりません。

なぜ、これだけ人の命にも関わる薬物をルールを守らずに使用してしまうのだろうと考えてみました。その理由は、日々のストレスなどがあるからだと思います。忙しい毎日の中では、それぞれが抱えている悩み事や心配事、問題などがあります。それを家族や友達など誰かに相談して頼ることができれば、気持ちも少しは楽になって落ち着くかと思います。しかし、それを人にうまく話すことができず、ひとりで抱え込んでしまうと、「薬物に頼る」方へ逃げてしまい、乱用へとつながっていくのだと思いました。

「薬物」について、法律や決められたルールをしっかり守って使用することは大切なことです。誘われたりしても、きっぱりと断る勇気を持つことも大切です。学校や勉強のこと、友達や家のことなどで、何か不安だったりモヤモヤすることがあれば、早めに自分の言葉で相談するように心がけることもとても大切だと思いました。日頃から、自分で「心のケア」をしていくことが、薬物乱用を防ぐことになるのだと思いました。

3 私が思うたばこについて

横浜市立平楽中学校 2年 野本 エレナ

近年たばこを吸える場所が制限され、レストランやカフェ、公共の建物の入り口付近などでの喫煙が禁止されるようになった。たばこは吸う本人だけでなく、その人の家族や周囲の人々までもが受動喫煙による健康被害を受けてしまうのが大きな問題だ。

私が今でもよく覚えているのは、小学5年生の朝の集団登校での出来事です。いつものように登校班で信号待ちをしていたところ、近くにいた人の吸っていたたばこの煙が風にのり登校班の列に吹いてきたのです。私は、たばこの煙が体にとっても悪いことを知っていたので、子供の近くで平気な顔をしてたばこを吸っているその人に対し怒りを感じました。

このことから世の中がたばこに対してどれだけ厳しくなっても、たばこを吸う本人の意識が低いから、周りの人への迷惑を考えないで平気で歩きたばこをしたりするのだと思いました。

また、たばこの吸う喫煙所の場所もよく考えられてなく問題がある場合があります。私がよく行く横浜のショッピングモールでは、喫煙所のすぐ隣にトイレの入り口がある場所があり、喫煙所のドアも開いていることが多いので、トイレの出入りの際に嫌でもたばこの煙を吸うことになります。小さな子供からお年寄りまで様々な人が使用する公共のトイレの近くになぜ喫煙所を作るのか全く理解できないし、たばこを吸う喫煙者は自分で選んで体に悪い煙を吸っているのだから、ドアを開けて換気をするなんておかしい話だと私は思います。

私は、中学2年生の保健の授業でたばこの危険性について学びました。その授業で知ったのは、海外では喫煙者に対しての注意喚起としてたばこの箱に喫煙の影響で黒くただれた肺や黄ばんで溶けた歯などの写真をのせているということです。私は、それはとても良いアイデアだなと感じ、日本でも同じような取り組みをすべきだと思いました。

また、一番良いのはたばこの販売自体をやめることだと思います。誰のためにもならないのが明らかなのに販売されていること自体がおかしいと思うからです。たばこが販売されていなければ、たばこの煙で不快な思いをさせられることもなくなるし、たばこをやめたいのに、どうしてもやめられないなんて問題もなくなるでしょう。喫煙による病気が減れば医療費も削減されるはずなので、国全体にとっても良い結果につながると思います。

私は今中学2年生ですが、私が大人になったら町を歩いてたばこの臭いがして嫌な思いをすることがなくなることを願っています。

4 身近の依存症

横浜市立永田中学校 2年 長崎 怜志

ぼく達の周りには、大勢の喫煙者がいます。その中には少なからず、沢山の人がいる所で喫煙をする迷惑な人もいます。私もたばこの煙の匂いがとても苦手で知人の車に乗った時にたばこ臭い時は、すぐに気持ち悪くなったりします。町を歩いている時に、時々匂ってくるたばこの煙、体に悪い悪い言われているのになぜなくならないのでしょうか。

たばこを吸うと毛細血管の収縮、血圧の上昇、酸素運搬能力の低下、せき、心臓の負担など様々な影響があります。昔ながらのライターで火をつけるたばこの煙には、喫煙者が直接吸いこむ「主流煙」と点火部から立ち上がる「副流煙」があります。有害成分は低温の不完全燃焼時により多く発生する為、副流煙は主流煙より多量の有害物質を含むそうです。たばこを吸う事を望まないのに受動喫煙の影響とされる年間死者数は10万5千人もいます。たばこの煙の中に含まれているニコチンは依存性がとても強くなかなかやめられません。日本禁煙学会の発表で、「タバコは薬物である。依存性はコカイン、ヘロインに次ぎ、アルコール、覚せい剤を上回る。毎年10数万人の命を奪う最大の健康危険因子」としています。現に僕の父も何度か禁煙した事があるとは言っていましたが30年近く吸い続けています。まだたばこが原因とされる病気は発症していませんが、少しずつ間違いなく死を近づけているので早くやめてほしいです。たとえそれが電子タバコでも。そんな父に、「お前はゲーム依存症だな。」と言われた事があります。

僕は元々、ゲームが大好きで、一回始めると充電が切れるまでやってしまいます。食事の支度が終わり、声を掛けられて家族が食べ始めてもなかなか止められず、よく怒られたりもします。ある日、宿題が終わっていない時にゲームを隠されました。なんだか本気でイライラしてきて父親に盾突いた後に部屋に閉じこもりました。(あれ?俺、依存症か?)と気になりインターネットで調べたところ、なんと特徴がほとんど一致している事に驚きました。

このようにいつの間にか依存症になっていた、という事を身をもって知りました。

父はタバコ。僕はゲーム。世の中にはアルコールや薬物など身近に沢山の依存症への入口があります。一度手を出したら後戻りできない危険なものはしっかり断る勇気も必要だと感じました。

これからは、目が疲れたり、きりが良い時にゲームを止める習慣をつけてみようと思います。父にも禁煙を勧めてみます。誰かが注意してくれる事は本当にありがたい事なんですよ。

5 命を守るためのルール

横浜市立永田中学校 3年 村野 新太

皆さんは普段自転車を使っているだろうか。ちょっとした移動にも便利で使っている人も多いと思う。ところで令和5年に全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されたことを知っ

ているだろうか。「努力義務」なので着用しなくても特に罰則はないのだが、やはり法律として施行されたからには守るべきである。

私がヘルメットを付け始めたのは中学1年生の時。普段から塾などの移動で自転車は利用していて、時には危ない思いをしていた。親から「ヘルメットの着用が努力義務化したから今日から付けなさい。」と言われた。私はヘルメット1つで命が守れるなら必要だと思い付けることにした。以前からヘルメットには興味を持っていたのでこのヘルメットを使える機会は嬉しく思った。そうして今でも自転車を使う時には必ずヘルメットを付けている。もちろん事故は一度も起こしていないがやはりヘルメットをつけることによる安心感がある。

しかし、街中を見ているヘルメットを付けている自転車利用者は少ないと感じる。そういった人はきっと本当にヘルメットを付ける意味があるのかと思っているのだろう。実際、ヘルメットを付けている人と付けていない人では自転車事故による致死率が1.9倍高くなっているというデータがある。また、自転車乗用中の交通事故で亡くなった人の約5割は頭部に致命傷を負っているというデータもある。それを見て私は驚いたのと同時に当然なのではないかと思った。これでもヘルメットを付けなかつもりだろうか。車でシートベルトを付けない人はさすがにいないと思うが、自転車のヘルメットも同じ命を守るためのことだと私は思う。

そしてヘルメットの話になると必ず出てくるのは「ヘルメットはダサいのでつけたくない。」という意見である。私は特におしゃれを気にしている訳ではないので、気にしてはいないが、そう思うのも仕方ないと思う。しかし、今ではおしゃれなヘルメットも出ていてさまざまな種類から選ぶことができる。「SGマーク」という安全性が示されたマークのついているものならばどんなものでも良いと思う。

自転車は誰でも乗ることができ、何か免許が必要な訳ではないのだが一瞬の気の緩みで事故を起こしかねない危険な乗り物である。安全運転を心がけることは当然大切であるがそれでも回避できない事故はある。子供であろうが大人であろうが命を守るためにもヘルメットは必ず着用すべきである。どうして法律が改正されたか、理由をよく考えてほしい。

中学生・高校生・一般の部

テーマ4 自由課題

1 カッコいい「先生」という職業

横浜市立共進中学校 1年 門脇 なつ希

私の将来の夢は学校の先生になることです。

小学校1、2年生の時の私は、とても泣き虫でした。その時の担任の先生は私が泣いてしまった時いつもそばにいてくれました。そしてずっと話を聞いてくれていました。とても心強かったし、先生がとてもかっこよかったです。

その時から、私は「先生になりたい」と思うようになりました。

3年生になり、先生にそのことを言うとうれしそうに、

「なつ希が先生になったら、きっと、いい先生になるね。」

と言ってくれました。とてもうれしくなり、ますます先生になりたいくなりました。

4年生では、とある子とずっとけんかをしていました。先生は

「けんかはいけないことです。周りの子にも、めいわくをかけているかもしれないでしょう。」と言いました。「そっか、けんかはダメなことなんだな」と教えてくれました。

私は5年生になったときにとある事件を知りました。何年も前の事件だけれど、校舎に刃物を持った人が入ったという内容の事件でした。これで、先生が命をかけて子供をかばい、守っていたというのを知りました。先生は、子供のために命をもかけられることにとてもひかれました。学校の先生はなんてかっこいい職業なのだろう、と思いました。

6年生の卒業式では、たくさんの先生が泣いていました。最後の言葉で先生は、

「6年間、あなたたちの成長する姿が見れて幸せだった。6年間、ありがとう。」

と言っていました。先生はみんなの卒業する姿まで見れる、幸せな職業だな、と思いました。

中学校に入学してからは、また、新しい先生と出会いました。優しい先生、面白い先生、きびしい先生。この先生たちと3年間この学校ですごしていくと思うとわくわくしました。「私が友人関係のことで悩んでいる」と国語の先生に言うと、また、たくさん話を聞いてくれました。やはり、先生はすばらしい職業だなと思いました。

私は、将来先生になりたいです。どんなにいそがしい時でも生徒の相談に乗ってあげたり、いけないことはきちんとどうしていけないのかを教えてあげられる、そんなかっこいい先生になりたいです。

2 将来の夢

横浜市立永田中学校 1年 白井 愛莉

私の将来の夢は、薬剤師になることだ。

薬剤師は薬局や病院などで薬を調剤し、患者さんに処方する、薬の専門家だ。

私がなぜ薬剤師になりたいのか、理由は2つある。

1つ目は、私が将来「人を救えて、笑顔に、そして幸せを増やせる仕事をしたい」という思いがあるからだ。薬は、人の命を救うことができる。そして患者さんの笑顔を見ることもできる。人の命を救える職業は薬剤師だけではないが、薬の調合、調剤は薬剤師にしかすることができない。私はそこにも、他の職業とは違う魅力を感じた。

2つ目は、私が経験したことだ。

私は昔、あまり体が強くなく、風邪や百日咳などにかかってしまうこともよくあった。幼い頃は何も思わなかった薬だが私は目の病気を持っていて、眼科に通院している。診察が終わり、目薬をもらう為に眼科に行くといつもの薬剤師さんが「最近どうですか?」と優しく聞いてくれる。私はとても話しやすく、疑問点にも詳しく答えてくれるため、知識が身に付き、また薬を服用する時も注意を払って説明された通りに飲む。それだけだと思ってしまうかもしれない。しかしよく考えてみてほしい。もしこの世界に「薬」が存在しなかったらどうなるのか。当然、みんなが薬をもらえなくなるだろう。薬をもらえないということは、例えば頭が痛くて病院に行っても、頭痛薬を処方してもらえない。そうなると、薬があれば助かる命も助からなくなってしまう。

そう考えると、やはり薬の存在は私たちにとってとても大切であるといえる。

薬を扱うという事は、ぼう大な知識が必要とされ、1つでも間違えたら命に関わる、危険や責任も多い職業だが、やりがいもその分大きいだろう。

また、薬剤師が働けるのは薬局や病院だけではない。製薬会社で新薬を開発したり、違法薬物のひとつ「麻薬」の所持者を取り締まる麻薬取締官など、就職の幅も広い。

薬は全ての病気を完全に治してくれる訳ではないが、病気の進行をおくらせたり、病気を治すサポートをしてくれる、とても重要なものだ。

このことも踏まえて私は、薬でたくさんの人を救い、元気にしていけるような薬剤師になりたいと思う。そのためには、今から苦手分野をしっかりと予習、復習し、理解していくようにしたい。

3 私たちの暮らしやすい地域

横浜市立永田中学校 1年 坂井 ふうの

私は少し前に、近くでやっていた地域清掃に参加しました。そこで私は、自分の行動、行ったことがこの地域の役に立つことができたと実感することができ、また自分の中で満足することもでき

ました。

まず、なぜ私がこの地域清掃に参加したかという、小学5年生のときに道徳の授業で同じく清掃のボランティアに参加し、みんなの役に立つというのを読みました。その時はまだこのことについては特に興味はなく、とりあえず聞いてとりあえず質問について考える、というだけでした。しかし、小学6年生になり、世界のゴミ問題について学習し、今の自分にできそうなことはあるのだろうかと思い、色々と調べてみましたが、どれも大変そうなものや、よく分からないものばかりでした。そんな中考えた末、この清掃というものに参加しようと考えました。

そしてその清掃の中で私が人の役に立てたと実際に感じた瞬間は2つあり、1つ目は、自分たちがきれいにした所を通るときです。がんばってみんなと協力しつつきれいになった道を通ったときはすごく達成感があったし、みんなも気持ちがよくなっていると考えるときすごくやってよかったと思えました。2つ目は、私が清掃している間に、通りかかった方たちが、「ありがとう。」や、「がんばってね。」と言ってくれたことです。またやってよかったと感じられました。

私はこの体験をふまえて、あらためて誰かの役に立てることの喜びを感じました。また、今回の清掃のように、誰かのためだけでなく、自分も気持ちよく過ごすことができる。つまり、自分のためにもなることを学ぶことができました。なので、これから私は、自分のためにも、誰かのためにも役に立てるように過ごしていきたいと強く心から思いました。

4 飢餓について

横浜市立永田中学校 1年 武田 歩夢

飢餓を世界から無くす為考えてみました。このテーマについて僕が毎週金曜日に行っている子ども食堂で賞味期限間近の食品が配られています。なぜ食べられる物を配っているのか疑問に思ったのです。スタッフに聞くと、

「フードロスの削減につながるからだよ。」と教えてくれました。日本ではそういう活動が取り組まれているけれど、海外の貧困な国の人々は飢餓で苦しんでいることも現実があるので飢餓をテーマに考えたいと思いました。

なぜ飢餓は起きるのか？

地震、津波などによる災害で農作物や田んぼ、畑が被害を受けたり、仕事や家など生活が失われてしまい経済的に食糧が手に入らない自然災害による飢餓、紛争によって住む家もなくなってしまったり、仕事もできなくなる紛争飢餓、貧困による飢餓などです。親が貧困なため子どもは教育を受けることもできず、貧困から脱するのは難しいそうです。僕が普通に3食食べ、学校に毎日行って勉強をして、友達と遊び、家に帰ってきて温かいお風呂に入り、きれいなふとんで寝るのは当たり前のことではないという事、僕は恵まれているんだと思います。

どうすれば飢餓を無くせるのだろうか？

寄付をしたり食品ロスを出さないようにするだけでなく、飢餓の状況をたくさんの人々が知って

おくべきだと思います。

僕の家族でペットボトルのキャップを集めています。キャップを集めると世界の子供達にワクチンを贈ることができるからです。これも1つの飢餓で苦しんでいる人々を救う活動だと思っているのでずっと続けたいと思います。

世界ではまだ食べられる食糧が13億トンも廃棄されているそうです。そのうち日本では612万トンだそうです。スーパーやコンビニなどの売れ残りなどは夕方くらいに半額にすれば良いと思います。また処分されるとCO2を出してしまうので環境問題にもなってしまいますから廃棄をしないようにしたいです。

このようにみんなで少しの努力をするだけでも飢餓を減らすことができると思います。私達が日々のお買物や食生活を見直すことで解消することができます。魚や野菜も皮や葉も食べるようにしたいです。どうしても食べ切れない食品などはフードバンクに寄付したいと思います。

5 もう一度考え直す自分の夢

横浜市立永田中学校 1年 南波 みずき

皆さんは、将来の夢について考え直したことがありますか？

私はある配信サービスでウェディングプランナーが題材のドラマを見ました。そのドラマをみたあとなんとなく、通信制合同説明会に行きました。しかし、私はダンスを習っているのでダンスのことについてしか考えていませんでした。そう、最初は私も、「将来の夢について考え直す」つもりなんかなかったのです。そこで、私の習っているダンスのスタジオは曲が全て英語だったり、スタッフさんも外国に留学していました。そのことをして私は、留学に興味がありました。留学が出来る学校のブースに行ってみたところ、楽しそうでワクワクしました。しかし、私は日本で高校は卒業したいと思い留学するのはやめようと思いました。そこで私は将来の夢について考え直してみたのです。そうすると以前ドラマで見ていたあのウェディングプランナーになりたいと思ったのです。

そこで、留学はしなくても英語が好きだから英語が強い高校に行きたいと思ったのです。でも、「ウェディングプランナーだと英語は生かされないけど、英語は生かしたい。」と思い、何か良い方法はないのかなと考えました。

そこで街中を思い出してみました。そうすると最近、日本の観光地は外国人が増えてきています。ということは日本が好きで外国人が増えてきているということです。いま、日本でも外国で結婚式を挙げたいと思っている人も少なくはないと思います。逆にいうと、日本で結婚式を挙げたいと思う外国人の人も出てくるのではないのでしょうか。私はそのような外国人にすごくいいところで、結婚式も挙げられる場所だということをみんなに知ってもらい、少しでも日本語があまり得意ではない国の人でも、気軽に結婚式が挙げられるようにしたいです。

このように私はウェディングプランナーになり、日本語があまり得意ではない人でも、私がしっ

かり宗教上の関係などを理解して、気軽に結婚式が挙げられるような場所を、日本の結婚式場をつくりたいです。

6 今を生きる事の大切さ

横浜市立平楽中学校 2年 照井 希々華

今年の春は多くの人との別れを経験した。

その中でも思い出深い人は、母の中学からの親友だ。母とその親友は20数年の付き合いだという。中学1年生の時、同じクラスで同じソフトテニス部で仲良しだった。母の中学時代を想像して、しみじみ思うのと同時に、私の今の友達の20数年後を想像してしまった。

母の親友とは高校は違っていても毎週必ず遊び、大学では宮城と神奈川で離れても、3か月に1回はどちらかの家に泊まりに行く仲だった。私が生まれた時もいち早く駆けつけて来てくれたし、お互いの子供どうし会うことも多かった。母の地元は秋田県で親友は仕事で秋田県に戻ったのだけけれど、お互い連絡を取り合い、秋田に帰省した時は必ず遊んでいた。

4年前、母の親友はリンパガンになった。入退院を繰り返し、免疫が落ち、去年の秋に難病の「進行性多巣性白質脳症」になってしまった。脳にウイルスが入ってしまい、治す手立てのない病らしい。その病になったら3か月で亡くなる人も多いと聞かされた。母はすぐに秋田に行った。帰ってきたときも、親友は母を認識できず、寝たきりだったという。亡くなるのはあっという間だった。私が葬儀に出た時に面影のないくらい、痩せていてはかりしれない悲しみに涙があふれた。私と似たような年齢の子供達がどのように生活していくのか。そう考えただけでもいたたまれなくなった。母は、「もっと会える距離だったら」と泣いていた。中学時代の写真を見ながら思い出を語っていた。

私は写真を見て今の自分を見ている様だった。その写真の中には、笑顔と希望がたくさん詰まってキラキラして見えた。私も同じソフトテニス部で、仲間がいる。その仲間とずっと共に歩いていく姿を感じた。しかし、人の人生はどうなるか分からない。海外に行く人や他県に行く人、その時その時の瞬間は誰にも分からない。だからこそ、今出会った人達との関係を大切にしていきたいと思う。私は生きている今この瞬間を大切に、命のありがたさをもう一度考えながら生きていこうと強く思った。

7 大好きな人

横浜市立平楽中学校 2年 徳山 花実

「私は今、とても幸せです。」

そう、胸を張って言うことができるのは、ある人のおかげです。その人のおかげで、私は毎日笑顔で過ごせています。

私には大好きな親友がいて、彼女は日頃から本当に支えになってくれています。優しい上に優秀であり、私にはもったいないくらいの人です。今までに喧嘩などしたことがなく、いくら話しても話題が尽きません。そんな彼女とは、今年で8年目の仲になります。夏休みが始まるにつれ、私達は遊ぶ計画を立てながら、話せば話すほど盛り上がり、気付けば最初に何を話していたのか綺麗さっぱり忘れてしまうほど、楽しみで仕方がありませんでした。今年の夏は去年と違い、3年生の受験に向けて、勉強もしなくてはならなく、休みが楽しみな反面、面倒くさいだろうなど少しやる気が起きないところもありました。それで、私と志望校が違う彼女との先を考えると、ふと思ったことがあります。それは、小学校・中学校といっしょだった彼女が、高枚からはいないことに、寂しさを感じたことです。学校は違っても友達ということは変わらないと分かっているものの、実際に目に見えなくなるという違いが、今の私にはとても考えられませんでした。この時私は、「今を大切にする」という言葉の意味がよく分かったような気がします。

先のことをいくら考えてもどうしようもできないため、私はあることを考えました。それは、「当たり前は当たり前じゃない」ことを頭の片隅に置いておくことです。よく耳にする言葉であっても、今まであまり実感が湧かなかったので、これからのことを考えるとこれが一番だなと思いました。私がたくさん笑顔をもたらしている分、私も彼女に笑顔になってもらいたいし、辛いときには、そっと寄りそえるようにしたいです。そして、私がそうであるように、彼女にとっても、誇れる存在であれたらいいなと思います。

8 だから私は勉強する

横浜市立平楽中学校 2年 池内 凜

私は中学生になり思うことがあります。人はなぜ勉強するのでしょうか。みんなめんどくさがり楽しくもない勉強を中学生はなぜ本職とするのでしょうか。なので人々が勉強し続ける理由を考えてみました。考えてみた結果たどり着いた答えが2つあります。

1つ目は可能性を広げるためにすることだと思います。勉強をすればさまざまな知識が増えこれまで知らなかったことに気が付き視野や価値観を広げることができます。今、機械化が進み人間の仕事がなくなってきている中で自分の思考力を上げ、目の前に立ちはだかる様々な問題を分析し、

補わなければいけない部分を考え解決策を見つけだすというのは機械では得られない人間の能力なのかなと感じました。勉強したことで得られるものは社会に出たり集団生活をする上でとても大切なものだと感じます。

その求められている能力を活用して自分の将来の職業の「可能性を広げる」ために必要な手段だと考えました。実際に英語の喋れない母と海外に旅行に行ったときには英語の説明を聞き取ることができず本当はサービスされたのも気付かずもらえたはずの権利を捨ててしまいました。なので1つ目は可能性を広げるため。という結果に辿り着きました。

2つ目は幸せになるための手段だと考えました。1つ目の理由で説明したように勉強をすることで将来の職業の可能性を広げることができます。それによりお給料のよい職業に就くことができ自由に使うことができるお金が増えます。そのお金を趣味に使い人生を豊かにすることができます。例えば海外のさまざまな思考や文化の違う経験をするためのお金が増え、様々な「人生を豊かにするため」に使えるお金を増やすことができます。また人生を豊かにするという観点では他にも今まで気にも留めなかったようなものが魅力的に映るようになっていたりすると考えました。教養のある人しかわからないクスッと笑えるような喜びが少しずつ積み重なり結果的に人生は色とりどりで1段階豊かなものになっていくのかなと考えました。以上のことから勉強をすることは人生を豊かに、幸せになるために行うものだと考えました。

今回なぜ勉強をするのかについて考えていき、勉強は人生の可能性を広げ幸せになるための手段なのだ。と考えることが出来ました。今後どういう世界に進むか分からない中でもこうして当たり前のように学ぶ場所が用意されているというのはとても普通ではなく、とても恵まれている事なのだ。と感じました。

この滅多にない機会を大切にし人生をより充実したものにするために今後はより一層熱心に勉強したいです。

9 突然のできごと…

横浜市平楽中学校 2年 衣川 心音

急性大動脈解離と言う病を知っていますか。この病は、心臓とつながっている一番太い血管が突然破裂してしまう病気です。

これは去年の話です。私の伯父が突然倒れてしまいました。伯父は、急性大動脈解離によって倒れてしまったのです。伯父が倒れて、手術が始まったのは夕方ぐらいでしたが、手術が終わったのは次の日の朝でした。そのくらい、この手術は難しく、大動脈解離になってしまうと、時間と共に死亡リスクが高くなってしまいう上、手術がとても難しいとされています。しかも伯父は、倒れてしまったときからなぜかはわかりませんが、足が動かなく、背中がいたいと言っていたそうです。命を最優先するため、心臓の手術はなんとか成功しましたが、足に血がかよわなくなってしまった時間が長くなり、先生のすすめもあり、伯父は切断という決断をしました。私は、伯父が切断という決断をしたときは、おどろきあり、心配もありました。なぜかと言うと倒れた時点で、手術をし

でも助かる確率がとても少ないと医者から言われていて、まずその時点で、心配していたのに、伯父は一人暮らしをしていたので、コレからどうやって生活するのがとても気になったし、心配になったからです。

伯父の足の手術も成功しました。最初は、車いすの生活から始まり、それでもあまりなれていないようで、大変そうでした。それでも伯父は、車いすで病院に通いリハビリをうけていました。なので、だんだんと松葉杖になっていき、義足も作りました。やはり、最初はなれていなく、切断したところと義足がいたいと言っていました。それでも伯父は、私といっしょに映画を観に行ってくれたりしました。そのあとも、病院などに通ったりして、今では、ほとんど松葉杖なしで歩けるようになりました。でも、まだずっと歩いていると、足がいたくなってしまうそうです。その中でも伯父は、私の体育祭に来てくれたりと、元気になっていきました。私は、観に来てくれたりするのが始めてだったのもあるけど、その中でも来てくれたのが、とてもうれしかったです。

このように伯父は、倒れてしまってもなんとか命をつないでいき、いまでは元気に過ごしています。私は、伯父がすごいと思います。突然倒れてしまったし、足を切断することになっても、前向きに考えていたことがすごいなと思いました。私も、そうゆうふうの前向きに考えながら、生活していきたいなと思いました

10 環境にも体にも良い世界作りを

横浜市立共進中学校 2年 望月 柚樹

私の家にはレモンの木がある。小学校低学年の頃は毎年アゲハ蝶が来て卵を産み、青虫が育ち、さなぎとなり、蝶になっていくのをそばで応援していた。小学校高学年になったころ、青虫は他の鳥に食べられてしまうこと、さなぎから蝶に孵っても飛ぶことができずそのまま命を落とす蝶がいることを知った。青虫もさなぎも蝶も生きるために必死なんだと感じた。中学生になってから青虫が出す大量のフンが土の上へ落ち、水やりをすることでそれが溶け、青虫が新しく食べる葉の助けをしていることが分かった。わずかな量かもしれないけれど、そういった自然界のサイクルが回っているのだと知ることができた。私の家のレモンの木には特別、肥料などは与えていないが、そのサイクルのおかげかレモンの木は毎日すくすくと育っている。葉は半分ほど食べられてしまうが、食べられてしまっても新しい葉が育っている。レモンの実は毎年できるわけではなし、少ししかできないけれど、肥料を使わないおかげで私は安心して食べることができている。

私はこのことをきっかけに無農薬栽培に興味を持ち始めた。そして普段何気なく食べている料理にも無農薬栽培の野菜や果物が入っていることを知った。私はスーパーへ買い物に行くのが好きなので、買い物へ行った時無農薬栽培の商品がどのくらいあるのか気にするようになった。家のレモンの木1本のサイクルだけを見れば、無農薬栽培の方が良いのにな、とってしまうけれど、農業という広い目で見ると手間も時間もかかってしまうため大変なんだな、と感じた。

私の家にあるたった1本のレモンの木から農業という広い世界を見ると簡単ではないんだな、と感じることができた。仕事としてやるのであれば農薬を使ってでも、早くたくさん量ができた

方がいいと思ってしまうけれど、私たち消費者側から考えると、環境にも体にも優しい方が良いのではないかと思います。だから環境、消費者のことを考えて、手間と時間をかけて作ってくれている無農薬農家さんを私は応援していきたい。

11 価値観を大切に

横浜市立共進中学校 2年 郭 心怡

何かの会議で多数決を取る場合、あなたは自分が良いと思う意見に手を挙げますか？それとも、多数派の意見に手を挙げますか？

私はこの時間が嫌いで、自分は何がいいか、そしてなぜこれがいいか理由が見つからず、結局多数派に手を挙げてしまう。これは自分だけではなく他の人もきっとそう。だけど、意見が選ばれた後に本当にこれがよかったのかと複雑な気持ちになり、自分が情けないと思えてくる。

小学校の授業で、いくつかの作文から1つの作文を選ぶことになったとき、私は真っ先にある作文に目をつけた。そしてそれを自分の中で1番と決めた。いざ多数決をとるとき、私は勇気を出して手を挙げたが、私以外、誰も手を挙げなかった。ほかの作品になったとき、いくつかの人たちが手を挙げると、今まで手を挙げなかった人たちは周りを見て気まずそうに手を挙げた。それは意味ないし、成長につながらないと思った。社会に出たとき、きっと多数派の波に私たちはのまれるだろう。とはいえ、それを直すのは難しい。私はそうでもしないと仲間はずれになってしまうからだ。だからみんなと意見を合わせることで、居場所を確保していた。

どこでもそうだけど、やっぱりみんなと趣味などが合ったほうが仲良くなれるし安心できる。本当はそうでなくても、気まずくなるのが嫌だから。毎回合わせるようにしてる。だけど、自分の意見を話すことで、自信につながることもある。必ず合わせなくてもいいし、自分の好きなものを選べばいい。だけどそれは薬物のように何回か合わせると、抜けられなくなることがある。

そもそも、周りとは違うのは変なことなのだろうか。恋愛対象もファッションも周りとは違うのは変なのか。小学校のときも異性ではなく同性が好きな子がいた。そのときは違和感を覚えていたし、すごく驚いた。しかし、今になって考えは変わった。みんなそれぞれの考えを持っているし、自分の考えを持つことは大切だと思う。周りとは違うことでたしかに違和感を覚えられたり、避けられるかもしれない。だけど、自分の価値観を大切にすることで、今の自分をもっと好きになれるし、見えなかった可能性も見えてくると思う。

今の自分にはまだ難しいと思うけど、自分らしさ、価値観を大切にし、もっと自分を好きになっていきたいです。そして本当になりたい自分に近づけるように、努力を積み重ねていきたいと思えます。

12 僕の弟

横浜市立南が丘中学校 2年 佐久間 優成

僕の弟は小学6年生で軽度の知的障害と自閉症スペクトラムがあります。こだわりが強く日々の行動に決まったやり方があり、動物や大きい音が苦手です。好きなものや興味があるものに集中しすぎるあまり周りが見えなくなって迷子になったり、動物や怖いと思ったものに対してパニックになり大声を上げて飛び出したりすることもあります。

そんなとき、弟の行動に対する周りの人の反応が気になり恥ずかしい思いをしたり、そのような行動を取る弟に対して怒りや悲しみを感じることもあります。小学生のときに、同級生に弟の様子をからかわれ悲しかったこともあります。

でも、好きなことに対して一生懸命取り組み、苦手なことには人の倍以上時間がかかってもコツコツと取り組んでる弟の姿を日々見ていると、僕はそんな弟を尊敬し、見習わなくてはと思います。

そんな弟ですが、「大きくなったら車を運転したい」や、「ケーキ屋さんになりたい」と言っています。現状では、障害を理由に免許取得は難しいかもしれません。しかし、何事にも真剣に取り組む姿を見ている僕や家族は、将来彼の願いが叶うよう応援していきたいと考えています。

また、障害がある人や弱者に対して優しく広い心で接してくれるような世の中になることを願っています。そして、僕も人に対して思いやりを持って接することができる人間になりたいと思います。

13 「拝啓 未来の私」

横浜市立永田中学校 2年 武田 ひな子

現在の私、2024年、中学2年生、14歳。趣味特技は絵を描くこと。友達と遊ぶことも好き。カラオケに行ったりご飯を食べたり海に行ったりプリクラを撮ったり。音楽を聴くことも好き。おすすめ曲を妹や母親にすすめてみたり。そんな日常です。世の中のことはちょっと難しいです。だけど目の前のこと、世間のルール、法律、それらも知っていかないといけないこともわかっています。でも本当はちょっと目を背けたい。だけどそろそろ逃げていてもいけません。

最初にも書いたように私は今14歳。あと4年で18歳。先の法律改正により18歳で成人です。なので少しずつ焦ってきている気持ちがないと言えば嘘ではありません。なので私は決めました。年齢ごとの自分にエールを送ります。

2025年、15歳、中学3年生。いよいよ義務教育最後の年。初めて自分の進路を選択する年です。ここから自分の将来が決まると言っても過言でもありません。人生の先輩の両親に相談しながら、友達の意見に耳を傾けながら、なるべく悔いのない選択をしたいです。そんな15歳の私に送る言葉は「自分の心に正直に、悔いのない選択をしよう。今の自分の頑張りが将来のなりたい自分につ

ながっていく」

2028年、18歳、高校3年生。高校卒業の年がやってきました。それと同時に、社会的には立派な大人です。あなたはどこまで大人になることができましたか？世の常識はわかっていますか？人の痛みはわかるようになりましたか？18歳の私に送る言葉は「心身ともにどこまで成長することができましたか？年齢に甘んじて、決して大人ぶってはいけません。どこまでもけんきょに周りの人のアドバイスに耳を傾けること」

2031年、22歳、まだ学生？それと社会人？その頃のあなたは何をしているのでしょうか。先のことすぎて、さすがにちょっと想像がつかないです。だけど確実に言えることは、自分の行動1つ1つに責任がともなってくる。そのことを踏まえて行動しなければなりません。その反面、制限されることが減るので、楽しみもたくさん増えるでしょう。今までとは違った世界が見えてくると思います。そんな22歳の私に送る言葉は「良いことも悪いことも全て自分で判断し、その結果も全て自分に降りかかってきます。まだまだ失敗もするでしょう。でもやり直しもききます。恐れることなく、果敢にチャレンジし、人生を謳歌しよう。あなたには無限の未来が広がっています」

今回この作文を通して、数年先からだいぶ先までの未来を考察でき良い機会になりました。改めて思ったことは、この世に生を受けたことはとても尊いこと。両親に感謝の気持ちを忘れずに、日々助けてくれている周りの人たちにも感謝をし、1日1日を大切に生活していきたいです。

14 誰もが「良いな」と思える環境へ

横浜市立永田中学校 2年 吉次 結

私たちが暮らしている地球では、年々地球温暖化が進行され続けています。

私は去年の10月に新しい家族として生後3か月程の子犬を迎えました。今年の7月、夏休みに入っすぐ、いつものように朝、散歩をしていると飼い犬が突然倒れてしまいました。私は近くの日影に飼い犬を移し、一旦水を飲ませて、真っ赤な太陽に照らされながらも、飼い犬を抱えて急いで家に向かいました。エアコンが効いている部屋で水を飲ませながら飼い犬の様子をみていると、始めはだるそうにしていたのですが、段々と回復し、飼い犬は無事でした。

この出来事があってから、私は地球温暖化について詳しく知りたと思いました。

地球温暖化とは人間の活動により、化石燃料を大量に使用したことで温室効果ガスの濃度が高まり、熱の吸収が増えることです。

私はどうしたら地球温暖化を少しでも防ぐことが出来るかを調べました。私は車に乗る頻度を減らしたり、エアコンを稼働させる時間を短くするといった、今のこの環境では難しいことしか出来ないと思っていましたが、私生活を少し意識するだけで簡単に対策できることを学びました。

例えば、「使用していない部屋の電気は消す」「野菜や果物を多く食べる」などが地球温暖化を防ぐ対策の1つになります。

1人1人が少しでも地球温暖化に向けて行動をとっていけば、今よりも良い環境をつくり出せる

と思います。

いつか私は、誰もが「良いな」と思えるような環境になることを信じています。

15 今を生きる

横浜市立永田中学校 2年 浅香 美咲

私の大好きなおばあちゃんを亡くしてからこの夏で1年。また、大好きなおじいちゃんを亡くして2年だ。今年は2人のお盆があった。私には「新盆」「お盆」とは聞き慣れない言葉だった。

そんなある日、母の実家へ行くと白い提灯が飾ってあった。確かに去年も父の実家にも飾ってあった。どんな理由があるのか疑問に思い調べると、「故人の魂が初めて家に帰って来る時に、道に迷わないようにするため。」という1つの提灯にこめられた大きな意味があると分かった。この夏には、おばあちゃんの一週忌、おじいちゃんの三回忌があり、私は2か所のお寺に行ったため2人のお坊さんに会った。お寺でお経を上げてもらって一緒にお経を唱えた。1つのお寺では経本を手渡され、意味も分からないままこれで供養になるならばと思い、お坊さんの声に合わせるのに無我夢中だった。お経が読み終わると、私達に教えてくれたことがいくつかある。1つは、一周忌や三回忌は、故人とその家族に区切りをつけるために行うということ。この区切りとは、故人が亡くなって、いつまでもクヨクヨせず気持ちを切り替えることを意味している。私が小学5年生の時に読んだ本にも「いつまでもクヨクヨしていると、故人も悲しむ。」という1文を思い出し、身にしみて感じた。2つ目は、「亡くなくても仏の世がある。故人は仏の世で家族は、この世で生きることは同じ。」この時私は「死んだのに生きる。」と、不思議でしたが、「亡くなってしまっても心の中でずっと生き続ける。」とおじいちゃんの葬儀でお母さんが私に掛けてくれた言葉を思い出し、それと同じ様に生きて行くのであろうと考えた。お坊さんが発した「この世の家族が笑顔で暮すことが、故人にとっても、一番の供養になる。」というのに心を動かされた。でもそれは簡単のようで簡単ではないのだろうと思ったけど、宗派の違う2人のお坊さんが、2人とも同じ様な話をしてくれた。お坊さんから話を聞く機会のない私は、この夏にたくさんの事を学ぶ事ができた。故人を愛し、強く思っている家族だからこそ、毎日この世から仏の世への架け橋となるお線香を立て、仏の世界とこの世の世界を煙の橋でつなぎ、仏様の前で手を合わす、古くからの日本の文化。こんな素晴らしい文化が、この先も絶えることなく受け継がれる必要がある。そのためには、お坊さんも言っていた。大事な事は、過去や未来を考えず、今、目の前にある事を一生懸命に生きること。これこそが、故人や先祖から託された使命であると、考える。そうすると、良い未来が必ずあると思う。

だから私は、この1分1秒を一生懸命に生きたい。今生きていることを当たり前だと思わず、生かされていることに感謝し、今の中学校生活、大好きな部活、バレーボールや勉強に全力で楽しみながら、今を生きようと思った。大切な家族が私を見守っていてくれるから、私は今を生きる。

16 部活を残し続けるために

横浜市立共進中学校 3年 内山 優希

部活・・・それは中学生、高校生の6年間でしか体験できない、掛け替えのない体験である。間もなく中学の部活を引退する自分にとって「部活」は、感動を呼び込む1つの「作品」であると思っている。しかし、部活には、こんな課題も出ている。「部活の指導者不足」や、「完全廃止」などである。特に、2つ目にとっては非常に考えがたい現実である。ではなぜ、このような課題が出てしまっているのか。やはり、その理由として、「教員不足」が挙げられる。近年、教員の残業時間が非常に問題となっており、実は部活の時間は教員にとって「サービス残業」である。更に、会議や科目の研究などで膨大な労働・残業があり、それに伴って、教育に従事する先生が少なくなってしまっている。それと連動して、2つ目の課題が出ている。勿論、2つ目の課題に関しては、少子化や、学校の方針などもあるが、多くの要因は「教員不足」であろう。

では、このまま、教員不足で部活が完全廃止になって良いのか。それは当然違う。例えば、教員不足という問題を解決するためにも残業時間の収入を出す、科目ごとの先生と学級担当の先生で分ける、というように、先生方の負担を少しでも減らす。更に、部活に関しては、「外部指導者」を増やしたりして、先生の負担を減らしながら部活を存続する取り組みを行う。そして何よりも重要なことが先生や教育委員会が「生徒の青春を尊重する」ことが大切であると、私は思う。

仮に部活がなくなってしまうと、甲子園、花園、全国高校サッカー選手権がなくなり、観客や視聴者側の人、そして、実際にその競技をしている選手にとって、目的ややりがいなくなり、互いにデメリットしか残らない。そうなると、クラブなどは残る一方、確実に将来の日本のスポーツ業界が衰退してしまう。だから、今、自分達、そして、指導者や教育に関わる人達が、部活の存続のために何ができるのかを考えなければいけない。考えるか考えないかで、将来の日本の運命が、左右されるからだ。

17 椿の首が落ちるのは。

横浜市立共進中学校 3年 大北 梨奈

「椿の首が落ちる」という言葉を聞いたことがあるだろうか。椿という花は終わり方に特徴がある。花卉がハラハラと舞い散るのではなく、花全体が首からぼとりと落ちる。よって、椿の花の終わりを人々は枯れるではなく、「首が落ちる」と表現したのだ。椿が首を落とすなら、人のおわりはどのように表すのか。

受験が近づく中学校3年の夏、塾でとある質問を受けた。

「貴方にとって、いい人生だった！と思えるのは何歳になった時だと思えますか？」

私は回答するのを躊躇った。これまで自分の将来について考えることから逃げてきたからだ。夢もやりたいことも決めずに、のらりくらりと生きることが楽しかった。私はこの問いに対して何も答えなかったが、同い年の生徒殆どは「死ぬ直前」と回答していた。死の間際、これまでしてきたことを振り返り、自分の人生の感想を紡ぐそうだ。

私は人生において大事なものは、過程ではなく結果だと思っている。どんな経験をしたかよりも先に自分はどのようにして終わるのか、何を思って終わるかを大切にしたい。その為に私は、未来で後悔しないで納得出来る道を探し、自らの手で切り開くことがこれからの自分の課題だと思う。具体的な目標や夢なんて後付けでいい。故に私がいい人生だったと思うのは、その課題を全て終えた時だろう。

さて、ここで話を冒頭へと戻そう。椿、桜などの花だけではなく、生きとし生けるものには平等に死が訪れる。人だって例外ではない。後世に影響を及ぼした偉人の伝記だって最期はどのように亡くなったかが記される。桜は散る、梅はこぼれる、椿は落つ、牡丹は崩れる、では人はどうなのか。自分が亡くなった時は、一体どのように表現されるのだろうか。回答はきっと人それぞれ違う。

私は椿のように、落つと表されたい。ほとんどの花は花弁が散って、最終的には花としての形を保たず枯れる。しかし、椿の場合は、花弁が落ちることなく、花ごと地に落ちてゆっくりと飴色に染まっていく。私はその終わり方にとても惹かれた。今まで生きて証を全て持って、その想いと一緒に静かに朽ちていく。私は椿のように、花弁をこぼすことなく生きていきたい。

貴方はこれから先どのような夢を抱くのか。かの有名なココ・シャネルも実際にどう生きたかにより、どんな人生を夢見たかを残している。なぜなら君が死んだからといって、君と夢が死ぬわけではないのだから。生も死もどちらも一度きりしかないその中で、貴方がどのような工夫を施すのか、その工夫とそこに辿り着くまでの過程を「生きる」と人は言うのだ。貴方の死は、人生は、一体どのように語り継がれていくのだろうか。

18 私の尊敬する祖母

横浜市立永田中学校 3年 平田 絵梨奈

あなたには、尊敬している人がいますか。私にはいます。茨城県に住んでいる母方の祖母です。今回は、私が祖母を尊敬している理由について3つ紹介したいと思います。

1つ目の理由は、祖母はいつでも色々なことにたくさん挑戦しているからです。祖母は遠くに住んでいるため中々会うことができませんが、ほぼ毎日のように「今日はこんなことがあったよ」とLINEで報告してくれます。祖母は今、近所のテニスクラブのコーチ、スマホ教室やパソコン教室、バルーン教室に挑戦していて、最近ではなんとジャズを習い始めたそうです。祖母の挑戦にはいつも驚いてしましますが、楽しそうな様子を聞くと私もすごく嬉しくなります。祖母にはこれからもたくさんの方に挑戦してほしいです。

2つ目は、祖母の幅広い人脈です。祖母にはたくさんの友人や知り合いがいます。以前からの友

人に加え、先ほど紹介した祖母が通っている教室の先生・生徒、そして驚くべきことに祖母が住んでいる村の議員さんや村長さんとも知り合いになったとのこと。そしてその方々とお互いに助けあっているようで、米農家さんから祖母がいただいたお米をよく私もいただいています。

3つ目は、祖母の優しい人柄です。祖母は昔からいつも私たち孫のことを考えて接してくれました。祖母に孫は私を含めて8人いて、そのうち私だけが一人っ子で私だけが茨城県ではない神奈川県に住んでいますが、祖母は遠くに住んでいる私のことを考えてくれて、おこづかいやお年玉も一人っ子の私だけ少し多くしてくれることもありました。また、私がお行儀の悪いことをすると叱ってくれたり、祖母の家に泊まりに行った時もまず宿題はしっかりやるように言ってくれたり、わからない問題は教えてくれたり、この前おこづかいをくれた時も「津田梅子のようになってほしい」と新しい5千円札をくれたりと、祖母の優しさを挙げるときりがありません。この祖母の明るくて優しい人柄が周りの人を引き寄せるのだと思います。

私は、知り合いも少なく、どちらかという人と言われてから何かをやることが多いです。しかし、先日祖母の家を日帰りで訪ねてから改めて祖母がどれだけすごい人なのかを感じることができました。そして、「私も祖母のような人になりたい」と思うようになりました。私は今、高校受験生です。消極的になってしまう自分の癖を直して勉強を頑張り、高校では積極的にたくさんのことに挑戦し、誰にでも優しく接することのできる人になりたいです。そして、祖母にたくさんの感謝を伝えたいと思います。

19 ボランティアに行ってきた

横浜市立永田中学校 3年 田中 杏

私はこの夏休みあるボランティア活動に参加してきました。活動内容としては学童やキッズクラブに通う小学生の面倒を見るというものでした。私がこの活動に参加しようと思ったのは、中学生最後だしいろんな経験を積んでおきたいなと思ったのと、これなら私も役に立てるなと思ったからです。

活動が決まると、なにをして遊ぼうとかどんな子がいるんだろう。というわくわくするような気持ちと、全然馴染めなかったらどうしようという不安な気持ちもあり、新学期のような気分でした。

そんな中、ボランティアの日を迎え、行ってみると、想像以上に元気な子供たちが待っていました。暑さに負けない元気さでたくさん話しかけてくれて、遊んでくれて、常に聖徳太子のような状況でしたがとても楽しかったです。帰る時間になるとたくさんまたね！と言って見送ってくれる中、1人の子が

「また来年も来てよ！高校生になったらさ雇ってもらってさここで働いてよ！」

と、言ってきました。そんなに楽しんでくれたならよかったと思いつつ、なんでそこまで来てほしいんだろうと少し疑問だったのですが、閉会式の時主催者の方が言っていた、

「学童やキッズクラブの大人たち少ないなと思いませんか。今、地域での活動やその活動

をする人たちが足りていないのです。」

という言葉聞いて少し理解できた気がします。確かに子供 20 人くらいに対し大人は 6 人程で対応していて子供たちを見るに加え、事務作業やお昼ご飯まで作っていて大変さが伝わってきました。どうやら子供たちもその大変さに気づいているようで、忙しそうな大人のところへは行かなかったり、声を掛け合い、できるだけ自分たちで揉め事や問題を解決しようとしてました。きっとボランティアに来てあんなに喜んでくれるのは、普段大人と遊びたい気持ちをめいっぱい向けられるからというのもあるんだろうなと思いました。

今回のボランティアでは終わると参加賞が貰えるとのことでした。最初これを聞いたとき、ボランティアは無償でする助け合いの気持ちを持った行動ですから物を貰うのはおかしいと思っていたのですが、参加賞を出してでも今の地域を知ってほしい体験してほしいという考えがあったのかもしれない。

私はこのボランティアで今の地域の現状やボランティア活動がどんな思いで行われているか知ることができました。もっとたくさんの方に知ってもらいやってみてほしいのですが、今の私にはどうしたらいいかわかりません。今、地域のためにできるのはたくさんボランティアに参加することだと思います。今後も機会があればたくさんお役に立てることを楽しみにしています。

日本の未来を担う子ども達を 応援します！！

高度濾過・水処理のエンジニアリングメーカー

“水”は全地球の限りある資源。
無駄使いを無くしましょう。



日本濾水機工業株式会社

〒232-0052 横浜市南区井土ヶ谷中町 91 番地
TEL:045-712-1211



私たちは、青少年の明るい未来を応援します。



横浜南央ロータリークラブ

〒231-0011 横浜市中区太田町1-11-3

TEL・FAX 045-664-0696



横浜弘明寺商店街協同組合

人情・下町・門前町

皆様のお越しを
お待ちしております



◆イベント情報やお店の検索は公式ホームページをチェック!

弘明寺商店街

検索

Rotary



国際ロータリー第2590地区

横浜南陵ロータリークラブ



「地元の町や世界をより良くしたい」

ロータリークラブには
そんな仲間が集っています

横浜南陵ロータリークラブ

Rotary Club of Yokohama Nanryo

〒231-0015横浜市中区尾上町5-77-2(株)ネコティア内 TEL090-3225-2590 FAX045-650-1251

あたらしいを、あたりまえに

J:COM

Rotary  横浜南ロータリークラブ
Rotary Club of Yokohama South

2024-25年度 国際ロータリー会長 ステファニーA. アーチック

「ロータリーのマジック」

国際ロータリー第2590地区 横浜南ロータリークラブ
2024-25年度会長 青柳 隆之

〒232-0016

横浜市南区宮元町 1-14 サンワビル 203 号室

TEL. 045-309-7962 FAX. 045-309-7972

粋な下町へ…
横浜橋通商店街

ようこそ
 いらっしやい！

横

濱

橋

通

横浜市営地下鉄ブルーライン
 阪東橋駅1番出口から徒歩2分

「No Drug Know Drug」

薬物反対～

危険ドラッグ反対～

横浜市薬剤師会
 薬物乱用防止マスコットキャラクター
ノードラくん

横浜市南区薬剤師会

南区自治会・町内会への加入のご案内

「自治会・町内会」は、一定の地域において、住民相互の親睦を図り、そこで起こる地域の福祉・環境・防犯・防災など様々な課題を解決することを目的に自主的に組織された住民団体です。
地域の絆をはぐくみ、地域で支え合う社会を作っていくために自治会・町内会へ加入しませんか？

自治会・町内会に加入をすると

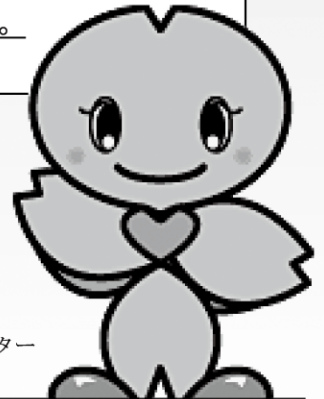
- ・地震などの非常時（災害発生時等）に助け合える強い味方ができます。
- ・通学路の見守り活動、防犯パトロールなど犯罪のない安心安全なまちづくりができます。
- ・地域の清掃、ごみ集積場所の管理など、きれいで快適な居住環境のまちづくりができます。
- ・子どもから高齢者まで、家族みんなで隣近所の方と一緒に楽しめるイベントに参加できます。
- ・地域におけるいろいろな活動情報を会報誌などでいち早く知ることができます。

※自治会町内会によっては、活動していない事業もあります。

加入の申し込みは、自治会・町内会の役員などにご連絡してください。

お住まいの場所の自治会・町内会や役員などがわからない場合は、下記の申込書に必要事項をご記入の上、区役所6階 62番窓口「地域振興課地域活動係」にお持ちいただくか、下記の送付先に郵送、FAX、Eメールをしてください。

南区マスコットキャラクター
みなっち



送付先

- ・〒232-0024 南区浦舟町 2-33 南区役所地域振興課（南区連合町内会長連絡協議会事務局）あて
 - ・FAX 番号：045-341-1240
 - ・Eメールアドレス：mn-chishin@city.yokohama.lg.jp またはQRコードを読み込み、「住所・氏名・連絡先」を記載して送信
- ※提出されました個人情報、南区自治会・町内会への加入手続き以外には使用しません。



きりとり ✂

自治会・町内会 加入（仮）申込書

年 月 日

ふりがな	
氏 名	
住 所	
電話番号	

※後日、ご加入いただく自治会・町内会役員などから、加入についてのお手紙や連絡があります。



令和6年12月

編集・発行 南区青少年指導員協議会

事務局 横浜市南区役所地域振興課内

〒232-0024 横浜市南区浦舟町2-33 TEL. 045(341)1238 FAX. 045(341)1240